

秋田市のまちづくりに関するアンケート調査

調査結果報告書

目 次

第1章	1
1. 調査の目的	2
2. 調査項目	2
3. 調査対象等	3
(1) 調査対象	3
(2) 調査人数（調査票の配布数）	3
4. 調査人数の配分方法と抽出方法	3
5. 調査期間	3
6. 調査方法	4
7. 有効回答者数	4
8. その他	4
第2章	5
1. 居住環境	6
(1) 居住環境で重視していること	6
(2) 地域で不足する施設	6
(3) 必要な施設	6
2. 住み替えの意向	7
(1) 現在の地域に対する居留意向	7
(2) 住み続けたい理由	7
(3) 住み替える場合に希望する地域のイメージ	7
(4) 住み替える場合に希望する市内の地区	8
(5) 住み替える場合に希望する居住形態	9
(6) 住み替える場合の不安	9
3. 交通手段	9
(1) 普段の交通手段	9
(2) バスを利用する条件	9
4. 自由意見（「コンパクトシティの取組」や「立地適正化計画の策定」について）	9
第3章	10
1. 基本的属性	11
(1) 性別	11
(2) 年齢	12
(3) 職業	13
(4) 居住形態	14

(5) 家族構成	15
(6) 居住地域	16
2. 居住環境	18
(1) 居住環境	18
(2) 地域で不足する施設.....	21
(3) 必要な施設（問8で「ある」を選択した人を対象）	23
3. 住み替えの意向	26
(1) 現在の地域に対する居留意向.....	26
(2) 住み続けたい理由 （問10で「住み続けたい又は住み続ける」を選択した人を対象）	29
(3) 住み替える場合に希望する地域のイメージ （問10で「住み替えたい」を選択した人を対象）	32
(4) 住み替える場合に希望する市内の地区 （問10で「住み替えたい」を選択した人を対象）	35
(5) 住み替える場合に希望する居住形態 （問10で「住み替えたい」を選択した人を対象）	38
(6) 住み替える場合の不安 （問10で「住み替えたい」を選択した人を対象）	41
4. 交通手段	44
(1) 普段の交通手段.....	44
(2) バスを利用する条件 （問16で「自家用車（マイカー）」を選択した人を対象）	46
5. 自由意見（「コンパクトシティの取組」や「立地適正化計画の策定」について） ...	48

第 1 章

アンケート調査の概要等

1. 調査の目的

秋田市立地適正化計画の策定にあたり、そこで定める居住誘導施策等の検討の参考にするため、事前調査として、市民の居住に対する意識等を把握するものである。

2. 調査項目

- (1) 調査対象者の属性（性別、年齢、職業、居住形態、家族構成、居住地域）
- (2) 住環境で重視する事項
- (3) 自身の地域で不足している都市機能施設
- (4) 住み替えに対する意識
 - ア 現状での住み替えの意志（親元項目）
 - イ 住み替えをしたくない理由（限定項目）
 - ウ 住み替えを希望する地域環境（限定項目）
 - エ 住み替えを希望する地区（限定項目）
 - オ 戸建て住宅又は集合住宅への住み替え意向（限定項目）
 - カ 住み替えに際しての不安要因（限定項目）
- (5) 交通手段
 - ア 普段の交通手段における自家用車の利用の有無（親元項目）
 - イ 自家用車からバスに転換するための条件（限定質問）
- (6) 本市が進める「コンパクトシティ形成の取組」や「立地適正化計画策定」に対する自由意見

3. 調査対象等

(1) 調査対象

秋田市内に居住する 20 歳以上の市民（基準日：平成 29 年 4 月 1 日）

(2) 調査人数（調査票の配布数）

調査人数は、標本の大きさ（n=599）と、過去の類似調査の回収率（約 40%）をふまえ、1,500 人（ $599 \div 0.4 = 1497.5 \div 1500$ ）とする。

母集団の大きさ	N	267,952
要求精度	n	0.04
信頼率	a	0.95
母比率	P	0.50
係数	k	1.96
標本の大きさ	n	599

$$n \geq \frac{N}{\left(\frac{e}{k}\right)^2 \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

$$n \geq \frac{267,952}{\left(\frac{0.04}{1.96}\right)^2 \frac{267,952-1}{0.5(1-0.5)} + 1}$$

4. 調査人数の配分方法と抽出方法

調査人数の配分は、男女、地域、10 歳階級の人口構成比を基本に、2 段階で配分し（①700 を各地域に 100 ずつ分配し各人口構成比に応じて配分、②残り 800 を母集団の各人口構成比に応じて配分）、それぞれの配分数に応じて無作為に抽出する。

上記の配分方法により算出した性別、年齢別、地域別の調査人数は次のとおり。

区分 (地域)	男							女							総数
	中央	東部	西部	南部	北部	河辺	雄和	中央	東部	西部	南部	北部	河辺	雄和	
20～29歳	15	20	9	11	16	6	7	17	19	11	13	16	5	8	173
30～39歳	24	21	15	18	24	7	7	25	21	15	19	23	6	6	231
40～49歳	25	18	15	18	21	7	6	25	19	15	21	22	8	7	227
50～59歳	24	21	15	20	27	12	12	25	23	17	21	28	11	11	267
60～69歳	21	21	17	18	27	11	11	25	23	18	20	30	11	10	263
70歳以上	22	21	17	16	27	15	13	36	34	25	24	43	24	22	339
	131	122	88	101	142	58	56	153	139	101	118	162	65	64	1500

5. 調査期間

平成 29 年 5 月 29 日（月） ～ 平成 29 年 6 月 23 日（金）

6. 調査方法

郵送調査法（送付および回収）

7. 有効回答者数

725 人（回収率 48.3%）

	配布数		回収数		回収率 (B/A)
	実数(A)	割合	実数(B)	割合	
20～29歳	173	11.5%	50	6.9%	28.9%
30～39歳	231	15.4%	96	13.2%	41.6%
40～49歳	227	15.1%	79	10.9%	34.8%
50～59歳	267	17.8%	141	19.4%	52.8%
60～69歳	263	17.5%	178	24.6%	67.7%
70歳以上	339	22.6%	181	25.0%	53.4%
計	1500	100.0%	725	100.0%	48.3%

	配布数		回収数		回収率 (B/A)
	実数(A)	割合	実数(B)	割合	
中央地域	284	18.9%	137	18.9%	48.2%
東部地域	261	17.4%	136	18.8%	52.1%
西部地域	189	12.6%	90	12.4%	47.6%
南部地域	219	14.6%	96	13.2%	43.8%
北部地域	304	20.3%	145	20.0%	47.7%
河辺地域	123	8.2%	61	8.4%	49.6%
雄和地域	120	8.0%	60	8.3%	50.0%
計	1500	100.0%	725	100.0%	48.3%

8. その他

集計は設問ごとに単純集計を行うほか、調査対象者の属性や関連質問に対応したクロス集計を行い、それぞれの集計結果に基づいた傾向分析を行う。

第2章

調査結果の総括

1. 居住環境

(1) 居住環境で重視していること

- ・「買い物（食料品、生活必需品等）の利便性」が全体の6割を超え、年代別でもすべての年代において最も重視されている。
- ・地域別では、「河辺地域」と「雄和地域」は「自然の豊かさ」の割合が高いが、それ以外の地域では、「買い物（食料品、生活必需品等）の利便性」が最も高くなっている。

(2) 地域で不足する施設

- ・住んでいる地域で不足する施設については、全体では、「ない」が40.7%、「ある」が35.7%となっている。
- ・「ある」の割合が高いのは、年代別では「30～39歳（43.8%）」、「50～59歳（43.2%）」、地域別では「西部地域（42.2%）」、「河辺地域（47.5%）」、「雄和地域（52.5%）」である。

(3) 必要な施設

- ・必要な施設は、「スーパーマーケット（30.9%）」、「診療所、医院（29.3%）」、「飲食店・レストラン（28.9%）」の順に割合が高い。
- ・不足する施設が「ある」とした割合が高い「30～39歳」、「50～59歳」についてみると、「30～39歳」は「公園、広場（16.7%）」を、「50～59歳」は「診療所、医院（14.9%）」を、必要としている。
- ・不足する施設が「ある」とした割合が高い「西部地域（42.2%）」、「河辺地域（47.5%）」、「雄和地域（52.5%）」についてみると、「西部地域」は「飲食店・レストラン（18.0%）」、「河辺地域」は「診療所、医院（26.5%）」、「雄和地域」は「スーパーマーケット（24.7%）」が必要な施設となっている。

2. 住み替えの意向

(1) 現在の地域に対する居留意向

- ・そのまま「現在の地域に住み続けたい又は住み続ける」は、全体の 69.8%となっており、「住み替えたい」という割合は、22.8%となっている。
- ・そのまま「現在の地域に住み続けたい又は住み続ける」とする割合はすべての年代で高いが、特に「60～69 歳 (82.2%)」と「70 歳以上 (82.5%)」では 8 割を越えている。地域別では、「中央地域 (74.6%)」、「西部地域 (72.2%)」、「南部地域 (71.6%)」、「河辺地域 (78.0%)」が 7 割を越えている。
- ・「不便を感じていないので住み続けたい又は住み続ける」の割合は、「中央地域 (62.7%)」が他地域と比較して高くなっている。
- ・不便かそうでないかは別に、「住み替えたい」の割合は、「雄和 (26.7%)」が他地域と比較して高くなっている。

(2) 住み続けたい理由

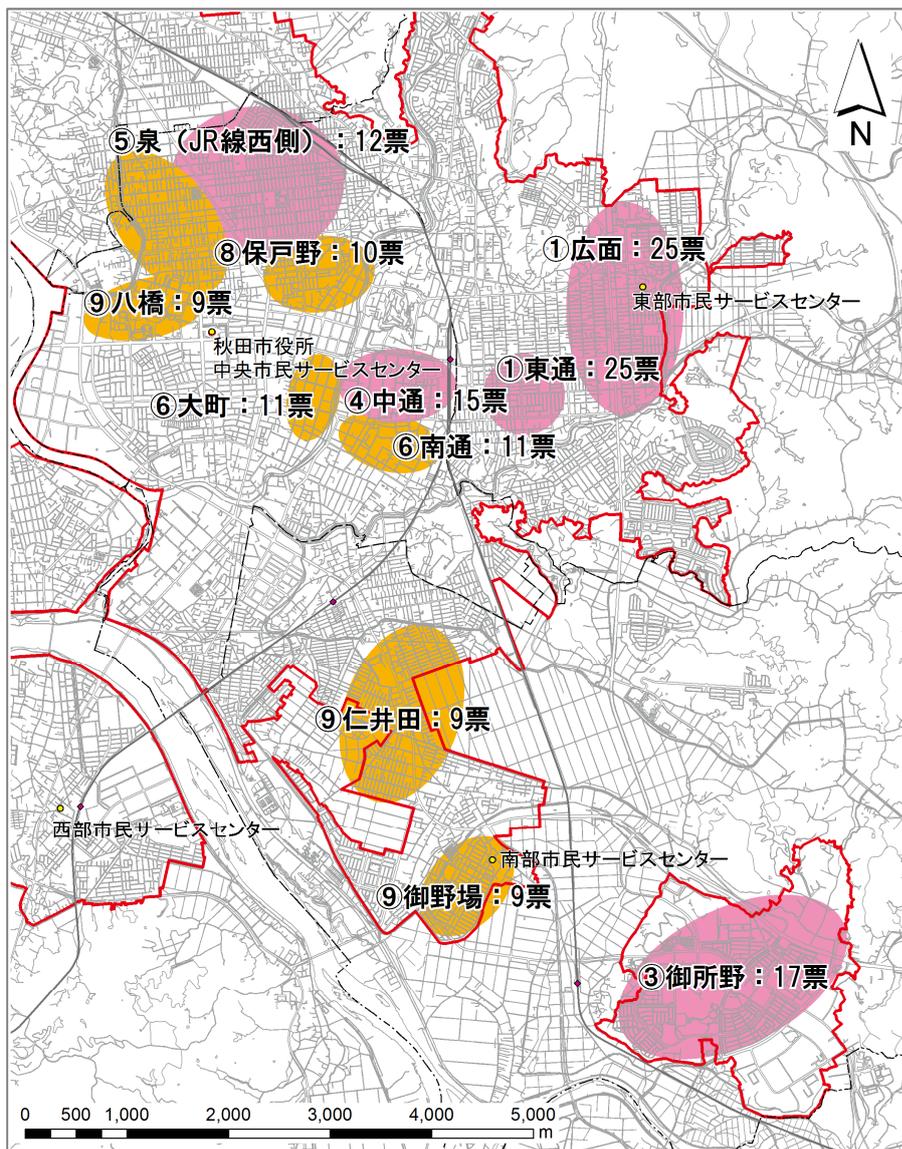
- ・住み続けたい理由の割合は、「買い物や医療など生活に便利 (41.4%)」、「地域に愛着がある (38.8%)」、「住み替える資金がない (28.0%)」の順になっている。
- ・地域別では、住み続けたい理由として「買い物や医療など生活に便利」の割合が高いのは「中央地域」で約 25%と最も高く、次いで「東部地域」が約 20%となっている。
- ・「雄和地域」は、住み続けたい理由として「地域に愛着がある」が約 30%と、他地域と比較して高くなっている。

(3) 住み替える場合に希望する地域のイメージ

- ・住み替えを希望する地域の条件の割合は、「日常的な買い物が便利な地域」が 72.4%で最も高く、次いで「診療所や医院など医療施設が充実した地域 (41.1%)」、「鉄道やバスを利用しやすい地域 (38.0%)」の順になっている。
- ・年代別、地域別でも、すべて「日常的な買い物が便利な地域」の割合が高い。

(4) 住み替える場合に希望する市内の地区

- ・住み替えを希望する市内の地区の割合は、「特にない (19.6%)」と「わからない (10.4%)」を除くと「東通」と「広面」がともに 15.3%と最も高い。
- ・「東通」と「広面」は多様なサービスを受けられる地域イメージを持たれている。



順位	アンケート	
	地区名	回答数
1	東通	25
	広面	25
3	御所野	17
4	中通	15
5	泉(JR線西側)	12
6	大町	11
	南通	11
8	保戸野	10
9	八橋	9
	仁井田	9
	御野場	9
12	山王	7
	手形	7
	泉(JR線東側)	7
15	千秋	6
	新屋	6
	外旭川	6
18	茨島	5
	土崎港中央	5
20	横森	4

(5) 住み替える場合に希望する居住形態

- ・全体で、「1戸建ての持ち家による新築住宅」が38.9%と最も高い。
- ・「分譲マンション」は、「70歳以上（35.3%）」で割合が高い。

(6) 住み替える場合の不安

- ・住み替えにあたって不安に思うことの割合は、「住み替え先の土地・建物の値段や物件情報」が44.9%と最も高く、次いで「住み替え先での近所づきあい（40.4%）」、「戸建住宅又は分譲マンションの購入に際しての資金（34.6%）」の順となっている。
- ・「住み替え先での近所づきあい」の割合が高いのは、「40～49歳（32.6%）」、「50～59歳（17.7%）」である。
- ・「戸建住宅又は分譲マンションの購入に際しての資金」の割合が高いのは、「70歳以上（18.4%）」である。

3. 交通手段

(1) 普段の交通手段

- ・普段の交通手段の割合は、「自家用車（マイカー）」が80.3%となっている。
- ・「自家用車以外」の割合が高いのは、「70歳以上（35.0%）」「中央地域（34.6%）」である。

(2) バスを利用する条件

- ・バスを利用する条件の割合は、「運行本数の多さ」が59.4%と最も高く、次いで「ダイヤの便利さ（57.8%）」、「運賃の安さ（50.8%）」の順となっている。
- ・「自家用車以外」の割合が高い「70歳以上」「中央地域」は、「停留所の近さ」の割合が高い。

4. 自由意見（「コンパクトシティの取組」や「立地適正化計画の策定」について）

- ・自由意見は、167人から259件の意見が寄せられた。
- ・その中で意見が多かったのは、「公共交通（バス）について（56件）」、「商業施設について（23件）」、「コンパクトシティに賛成（12件）」、「駐車場の無料化について（11件）」、「働く場所・雇用の確保について（10件）」、「道路整備について（10件）」となっている。

第 3 章

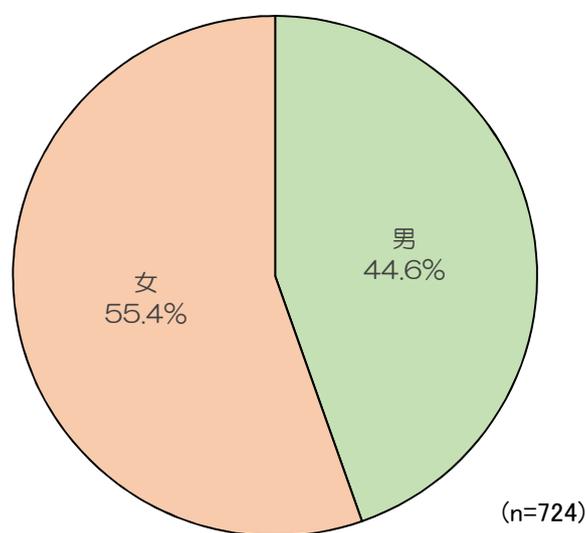
調査結果

1. 基本的属性

(1) 性別

- ・性別ごとの回答者の割合は、「男性」が44.6%、「女性」が55.4%であった。
- ・配布数の割合と比較すると、「女性」からの回答が多く得られたという結果になった。

問1 あなたの「性別」をお答えください。(1つだけ選択)

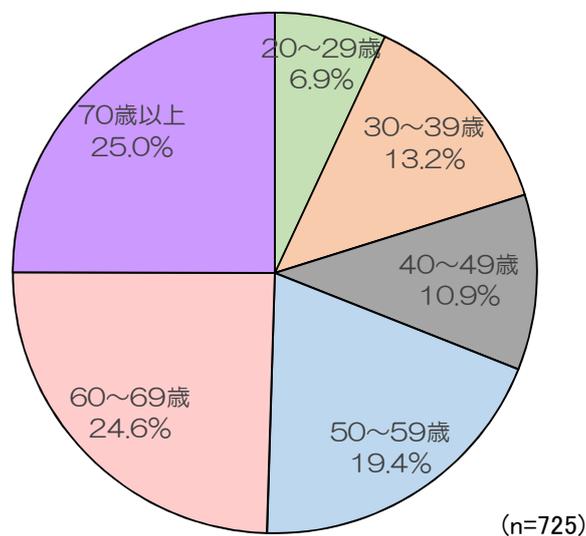


	配布数		回収数		回収率 (B/A)
	実数(A)	割合	実数(B)	割合	
男性	698	46.5%	323	44.6%	46.3%
女性	802	53.5%	401	55.4%	50.0%
計	1500	100.0%	724	100.0%	48.3%

(2) 年齢

- ・年齢別の回答者の割合は、「70歳以上」が25.0%と最も高く、次いで「60～69歳（24.6%）」、「50～59歳（19.4%）」の順になっている。
- ・配布数の割合と比較すると、回答者の割合と同じく「70歳以上」が22.6%と最も高くなっているが、次いで「50～59歳（17.8%）」、「60～69歳（17.5%）」の順になっている。

問2 あなたの「年齢区分」をお答えください。(1つだけ選択)

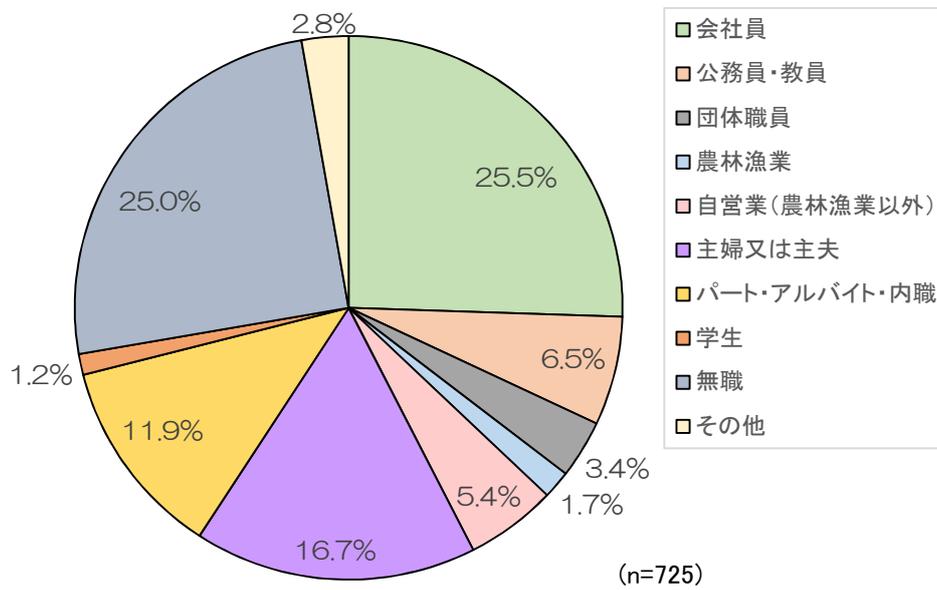


	配布数		回収数		回収率 (B/A)
	実数(A)	割合	実数(B)	割合	
20～29歳	173	11.5%	50	6.9%	28.9%
30～39歳	231	15.4%	96	13.2%	41.6%
40～49歳	227	15.1%	79	10.9%	34.8%
50～59歳	267	17.8%	141	19.4%	52.8%
60～69歳	263	17.5%	178	24.6%	67.7%
70歳以上	339	22.6%	181	25.0%	53.4%
計	1500	100.0%	725	100.0%	48.3%

(3) 職業

・職業別の回答者の割合は、「会社員」が25.5%と最も高く、次いで「無職（25.0%）」、「主婦又は主夫（16.7%）」の順になっている。

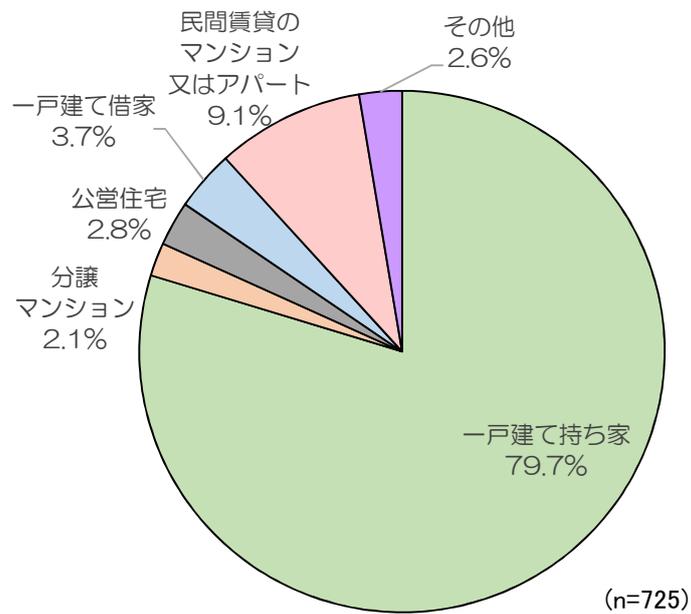
問3 あなたの「職業（主なもの）」をお答えください。（1つだけ選択）



(4) 居住形態

・居住形態別の回答者の割合は、「一戸建て持ち家」が79.7%と最も高く、次いで「民間賃貸のマンション又はアパート（9.1%）」となっている。

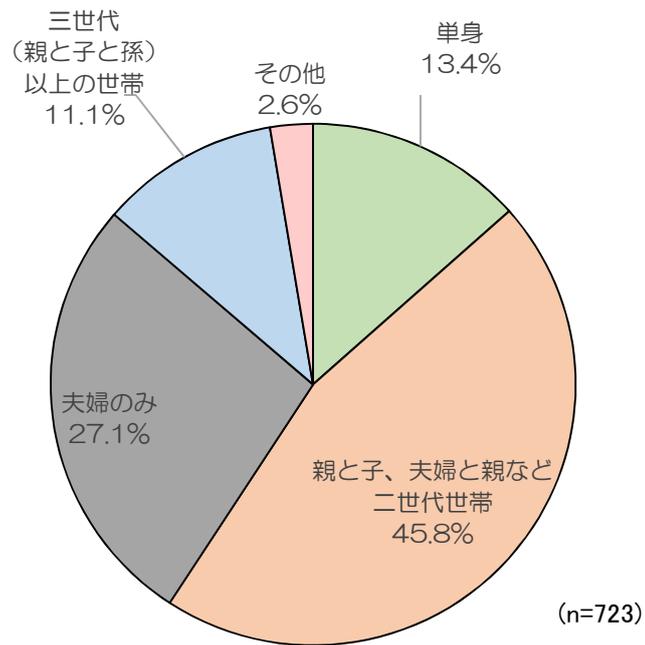
問4 あなたの「お住まい」の形態をお答えください。(1つだけ選択)



(5) 家族構成

・家族構成別の回答者の割合は、「親と子、夫婦と親など二世世代世帯」が 45.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ (27.1%)」、「単身 (13.4%)」の順となっている。

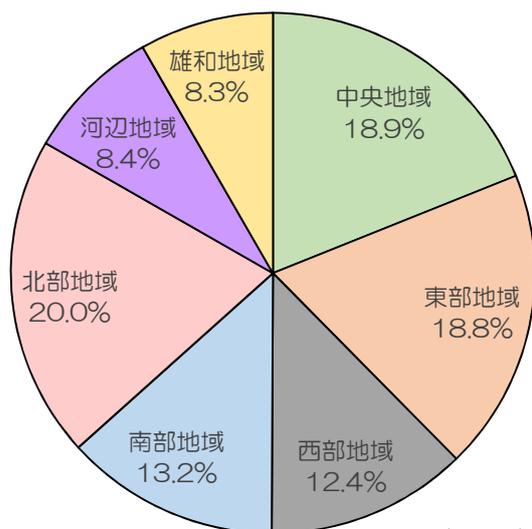
問5 あなたの「家族構成」をお答えください。(1つだけ選択)



(6) 居住地域

・居住地域別の回答者の割合は、各地域の配布枚数の割合とほぼ同じになっている。

問6 あなたの「お住まいの地域」をお答えください。(1つだけ選択)

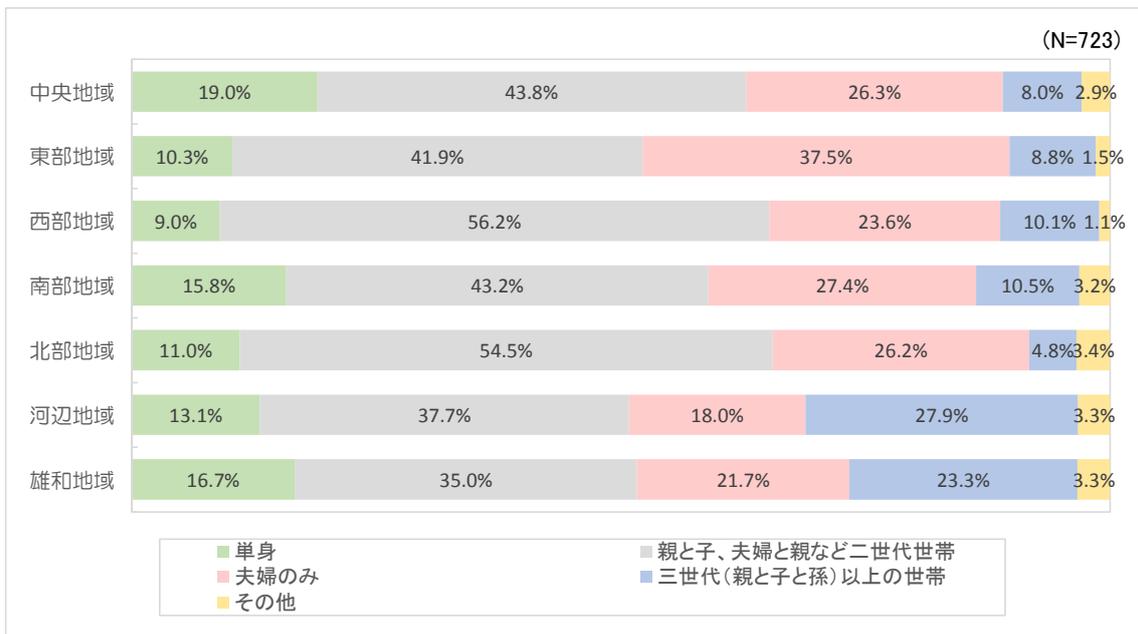


1. 中央地域 (大町、旭北、旭南、川元、川尻、山王、高陽、保戸野、泉(JR線西側)、千秋、中通、南通、檜山、茨島、八橋)
2. 東部地域 (東通、手形、手形(字)、手形山、泉(JR線東側)、旭川、新藤田、濁川、添川、山内、仁別、広面、柳田、横森、桜、桜ガ丘、桜台、大平台、下北手、太平)
3. 西部地域 (新屋、勝平、浜田、豊岩、下浜、向浜)
4. 南部地域 (牛島東、牛島西、牛島南、卸町、大住、仁井田、御野場、御所野、四ツ小屋、上北手、山手台)
5. 北部地域 (寺内、外旭川、土崎港中央、土崎港東、土崎港西、土崎港南、土崎港北、左記以外の土崎港、将軍野東、将軍野南、左記以外の将軍野、港北、飯島、金足、下新城、上新城)
6. 河辺地域
7. 雄和地域

	配布数		回収数		回収率
	実数(A)	割合	実数(B)	割合	(B/A)
中央地域	284	18.9%	137	18.9%	48.2%
東部地域	261	17.4%	136	18.8%	52.1%
西部地域	189	12.6%	90	12.4%	47.6%
南部地域	219	14.6%	96	13.2%	43.8%
北部地域	304	20.3%	145	20.0%	47.7%
河辺地域	123	8.2%	61	8.4%	49.6%
雄和地域	120	8.0%	60	8.3%	50.0%
計	1500	100.0%	725	100.0%	48.3%

「家族構成×居住地域」のクロス集計

- ・すべての居住地域で「親と子、夫婦と親など二世世代世帯」の割合が高くなっている。
- ・「夫婦のみ」の割合は「東部地域（37.5%）」が他の地域に比較して高くなっている。
- ・「三世代（親と子と孫）以上の世帯」の割合は、「河辺地域（27.9%）」と「雄和地域（23.3%）」が他の地域に比較して高く、「北部地域（4.8%）」が低くなっている。



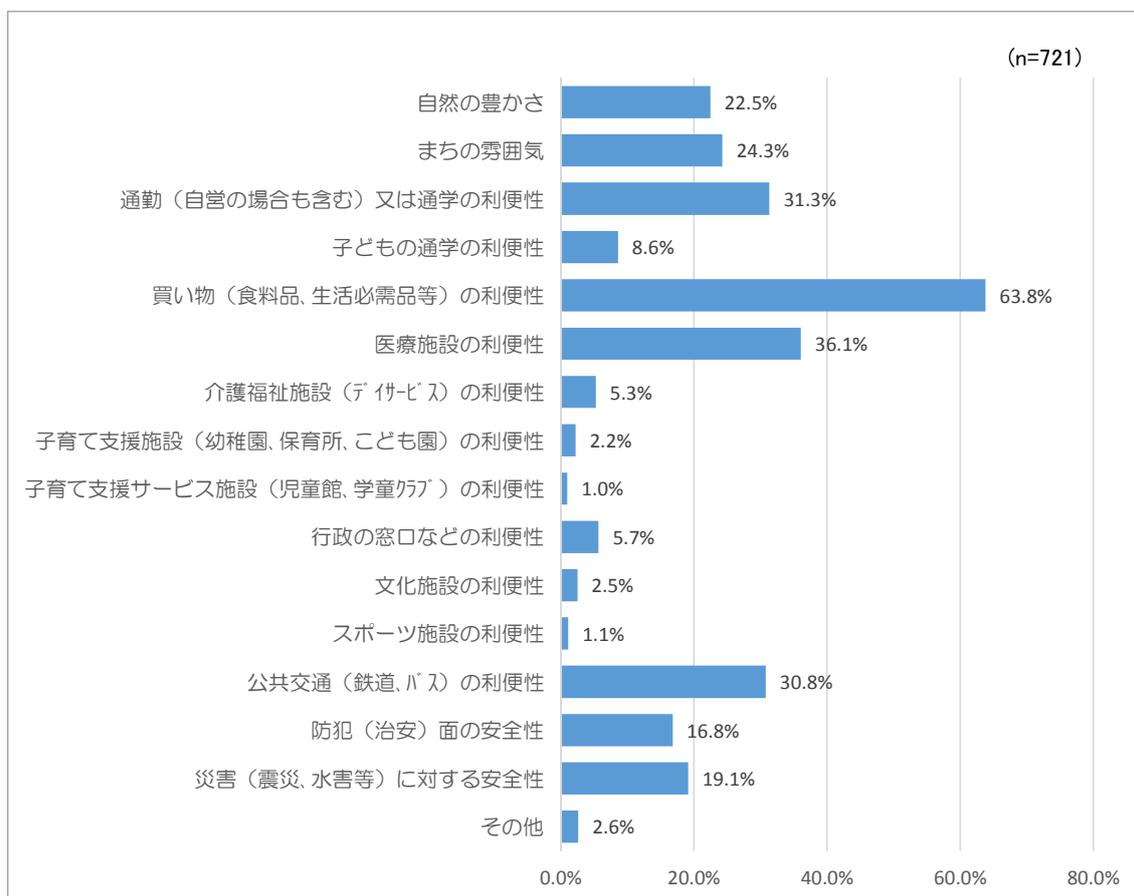
2. 居住環境

(1) 居住環境

ア 全体集計

- ・居住環境の中で重視していることでは、「買い物（食料品、生活必需品等）の利便性」の割合が63.8%と最も高く、次いで「医療施設の利便性（36.1%）」、「通勤（自営の場合も含む）又は通学の利便性（31.3%）」、「公共交通（鉄道、バス）の利便性（30.8%）」の順になっている。

問7 あなたが居住環境の中で重視していることをお答えください。（3つまで選択）

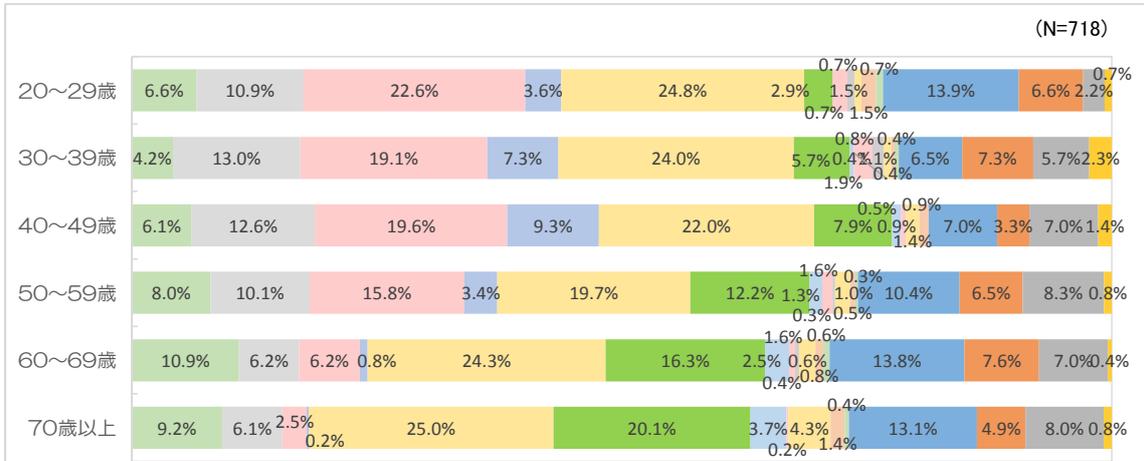


※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

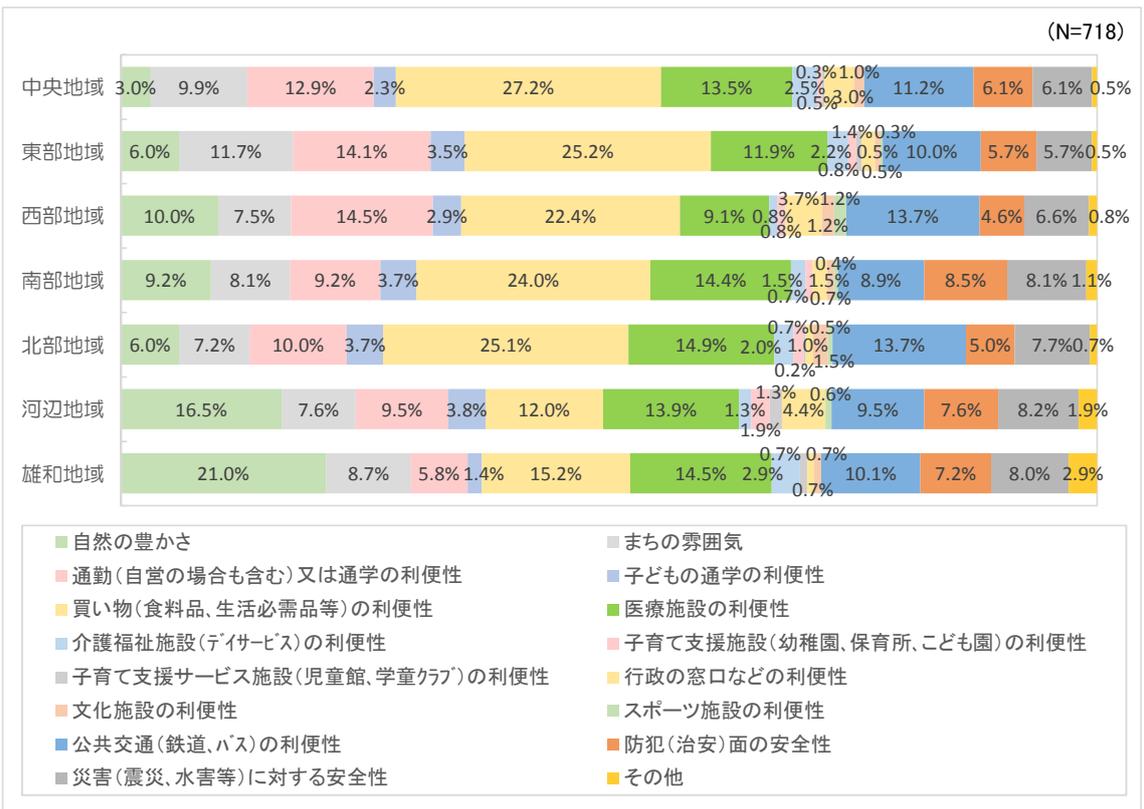
イ 「居住環境×年代」および「居住環境×居住地域」のクロス集計

- ・年代別では、すべての年代で「買い物（食料品、生活必需品等）の利便性」の割合が高くなっている。
- ・年代が上がるにつれて「医療施設の利便性」の割合が高くなっており、「70歳以上」が20.1%なのに対し、「20～29歳」は2.9%となっている。
- ・「通勤（自営の場合も含む）又は通学の利便性」は、年代が下の方で割合が高くなっており、「20～29歳（22.6%）」、「30～39歳（19.1%）」、「40～49歳（19.6%）」、「50～59歳（15.8%）」で1～2割となっている。
- ・「公共交通（鉄道、バス）の利便性」については、「20～29歳（13.9%）」、「50～59歳（10.4%）」、「60～69歳（13.8%）」、「70歳以上（13.1%）」で1割を越えている。
- ・地域別では、「河辺地域（12.0%）」と「雄和地域（15.2%）」を除く、全ての地域で「買い物（食料品、生活必需品等）の利便性」の割合が高く、2割を越えている。
- ・「河辺地域（16.5%）」と「雄和地域（21.0%）」では「自然の豊かさ」の割合が高くなっている。
- ・「中央地域（12.9%）」、「東部地域（14.1%）」、「西部地域（14.5%）」では、「通勤（自営の場合も含む）又は通学の利便性」の割合が、他地域と比較して高くなっている。
- ・「医療施設の利便性」については、「西部地域（9.1%）」を除く全ての地域で1割を越えている。
- ・「公共交通（鉄道、バス）の利便性」については、「南部地域（8.9%）」と「河辺地域（9.5%）」を除く全ての地域で1割を越えている。

【年代別集計】



【地域別集計】

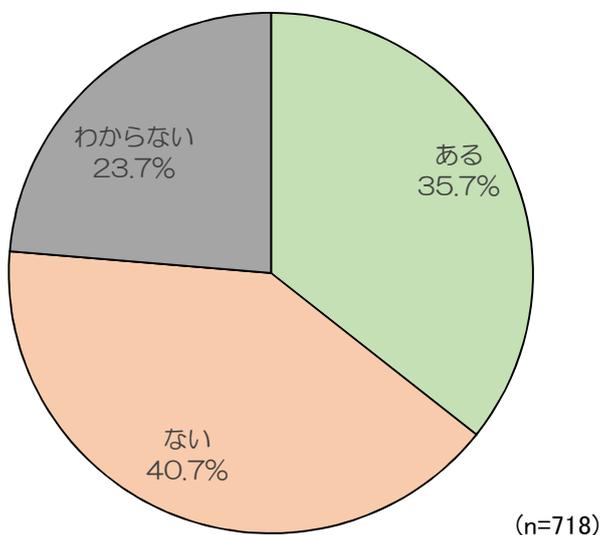


(2) 地域で不足する施設

ア 全体集計

・住んでいる地域で不足する施設については、「ない」が 40.7%、「ある」が 35.7%となっている。

問8 あなたが住む地域（おおむね小学校区）で不足する施設はありますか。（1 つだけ選択）



イ 「地域で不足する施設×年代」および「地域で不足する施設×居住地域」のクロス集計

・年代別では、「30～39 歳 (43.8%)」、「50～59 歳 (43.2%)」で、「ある」の割合が高くなっている。

・「20～29 歳」では、「ある (36.0%)」と「ない (36.0%)」の割合が同じである。

・「40～49 歳 (38.5%)」、「60～69 歳 (44.1%)」、「70 歳以上 (44.4%)」では、「ない」の割合が高くなっている。

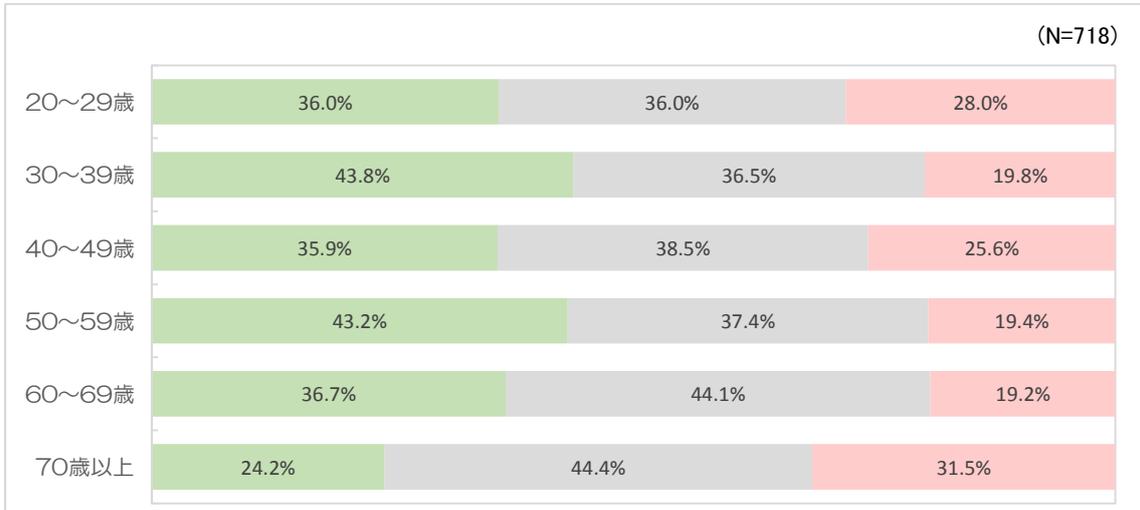
・「70 歳以上 (24.2%)」では、「ある」の割合が他年代と比較して低くなっている。

・地域別では、「西部地域 (42.2%)」、「河辺地域 (47.5%)」、「雄和地域 (52.5%)」で「ある」の割合が高くなっている。

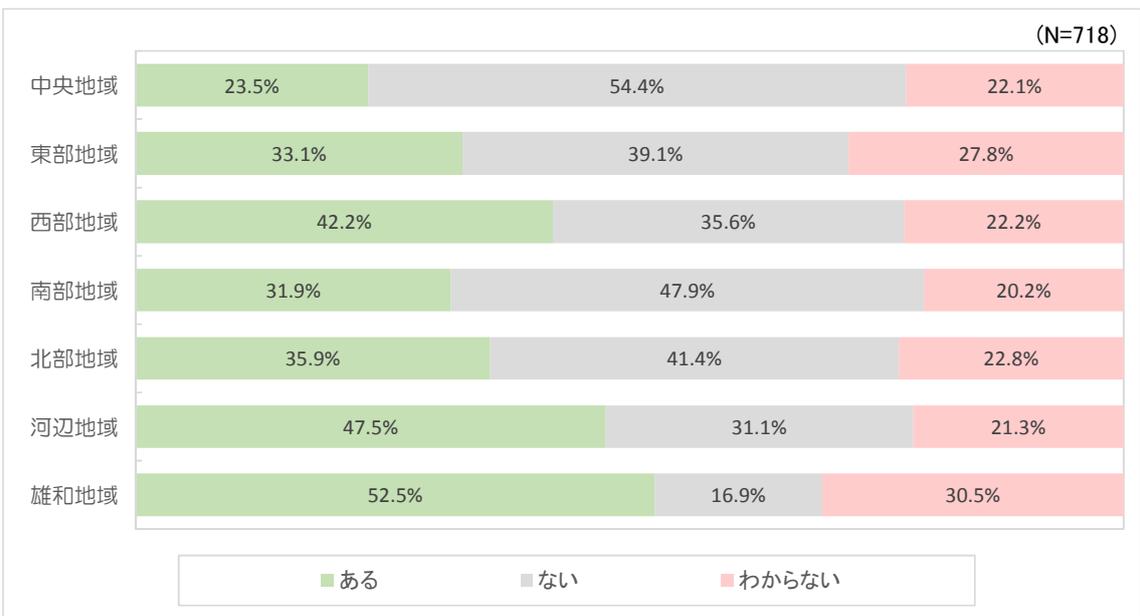
・「中央地域 (54.4%)」、「東部地域 (39.1%)」、「南部地域 (47.9%)」、「北部地域 (41.4%)」で「ない」の割合が高くなっている。

・「雄和地域 (16.9%)」では、「ない」の割合が他地域と比較して低くなっている。

【年代別集計】



【地域別集計】

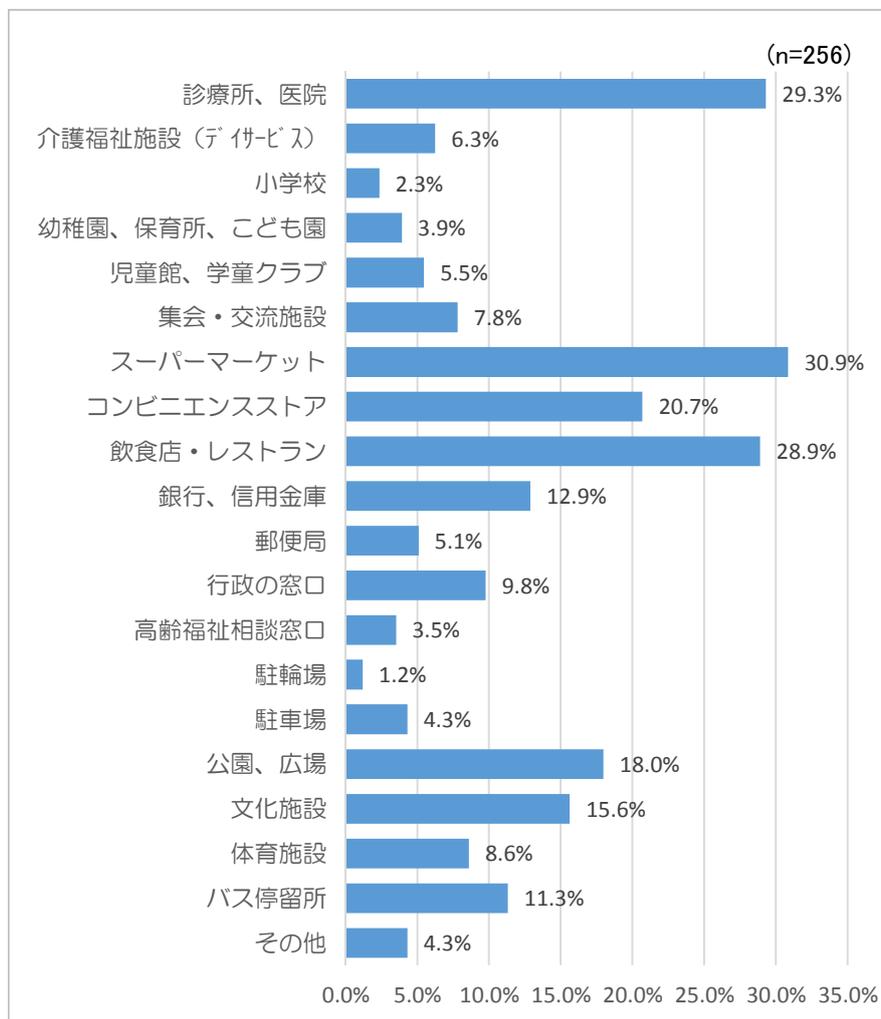


(3) 必要な施設（問8で「ある」を選択した人を対象）

ア 全体集計

・必要な施設で、割合が最も高いのは「スーパーマーケット」の30.9%で、次いで「診療所、医院（29.3%）」、「飲食店・レストラン（28.9%）」の順になっている。

問9 不足する施設とはどのような施設ですか。（3つまで選択）

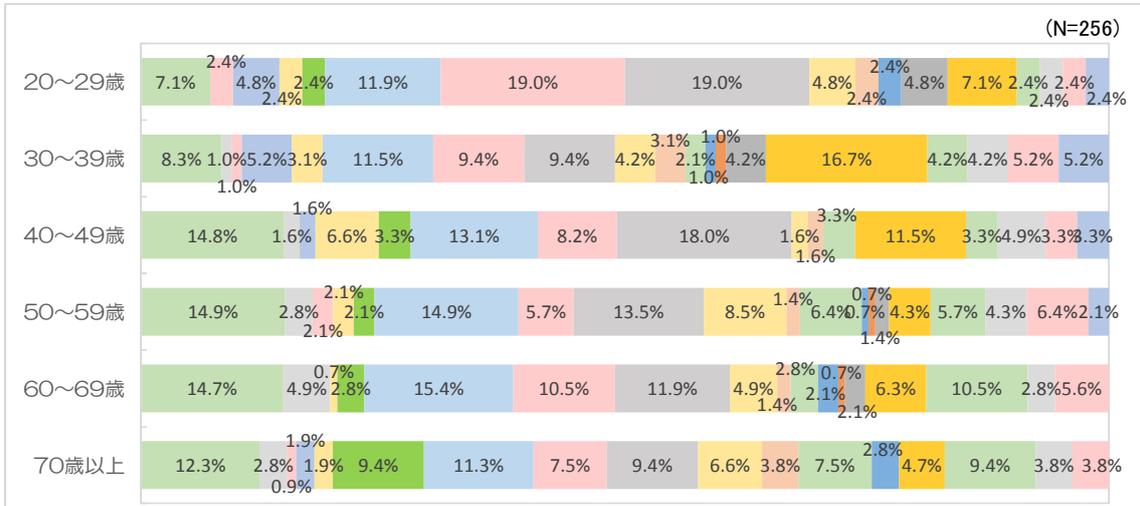


※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

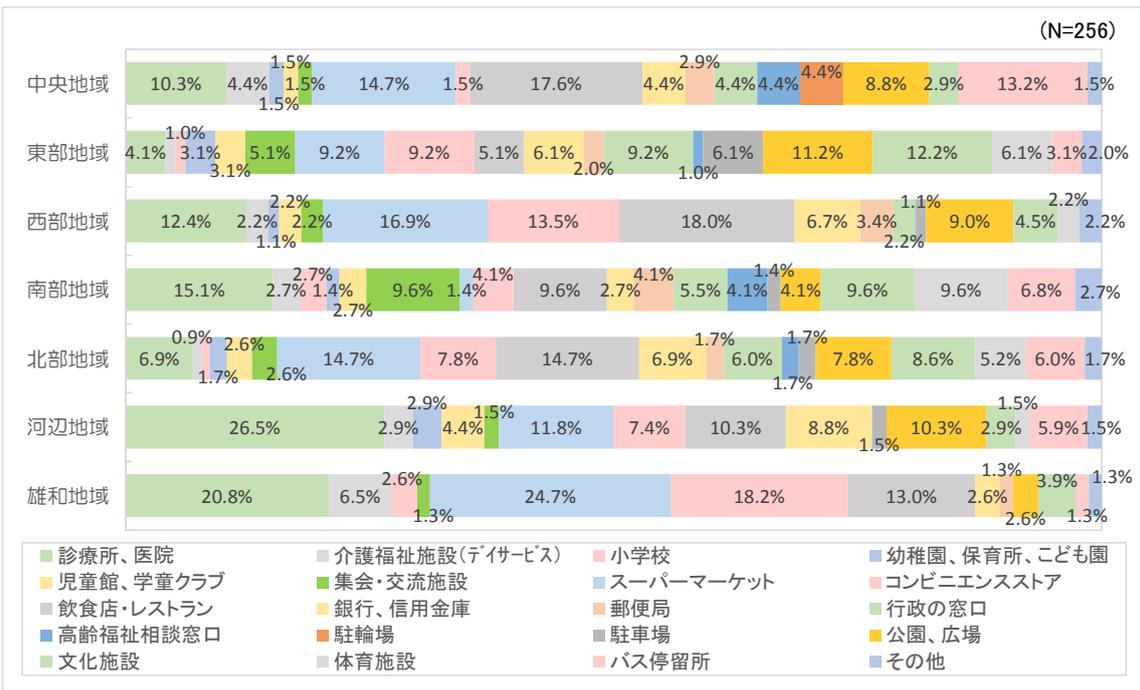
イ 「必要な施設×年代」 および 「必要な施設×居住地域」 のクロス集計

- 年代別では、必要な施設が年代によって違い、「20～29 歳」は「コンビニエンスストア (19.0%)」、「飲食店・レストラン (19.0%)」、「30～39 歳」は「公園、広場 (16.7%)」、「40～49 歳」は「飲食店・レストラン (18.0%)」、「50～59 歳」は「診療所、医院 (14.9%)」、「スーパーマーケット (14.9%)」、「60～69 歳」は「スーパーマーケット (15.4%)」、「70 歳以上」は「診療所、医院 (12.3%)」の割合が高くなっている。
- 「診療所、医院」の割合は、「20～29 歳 (7.1%)」と「30～39 歳 (8.3%)」で、他年代と比較して低くなっている。
- 「飲食店・レストラン」の割合は、「30～39 歳 (9.4%)」と「70 歳以上 (9.4%)」で、他年代と比較して低くなっている。
- 地域別では、「中央地域 (17.6%)」と「西部地域 (18.0%)」は「飲食店・レストラン」、「東部地域」は「文化施設 (12.2%)」、「南部地域 (15.1%)」と「河辺地域 (26.5%)」は「診療所、医院」、「北部地域」は「スーパーマーケット (14.7%)」、「飲食店・レストラン (14.7%)」、「雄和地域」は「スーパーマーケット (24.7%)」の割合が高くなっている。
- 「スーパーマーケット」の割合は、「東部地域 (9.2%)」で他地域と比較して低くなっている。
- 「診療所、医院」の割合は、「東部地域 (4.1%)」と「北部地域 (6.9%)」で他地域と比較して低くなっている。
- 「飲食店・レストラン」の割合は、「東部地域 (5.1%)」と「南部地域 (9.6%)」で他地域と比較して低くなっている。

【年代別集計】



【地域別集計】



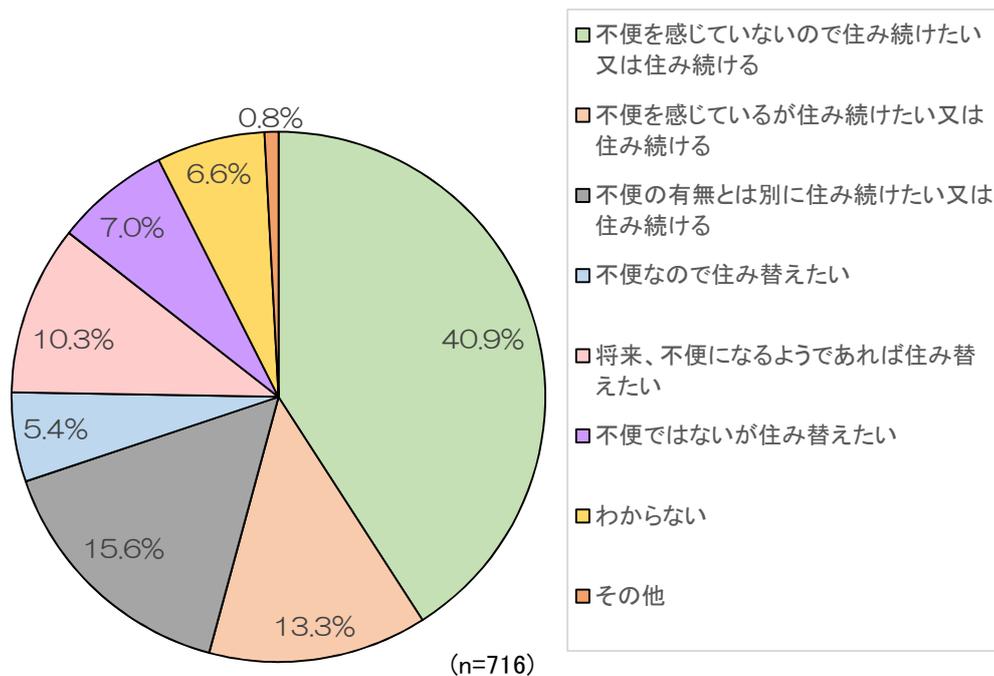
3. 住み替えの意向

(1) 現在の地域に対する居住意向

ア 全体集計

- ・居住意向では「不便を感じていないので住み続けたい又は住み続ける」が40.9%と最も高く、次いで「不便の有無とは別に住み続けたい又は住み続ける（15.6%）」、「不便を感じているが住み続けたい又は住み続ける（13.3%）」の順となっている。
- ・そのまま「現在の地域に住み続けたい又は住み続ける」という割合は、全体の69.8%となっており、逆に「住み替えたい」という割合は、22.7%となっている。

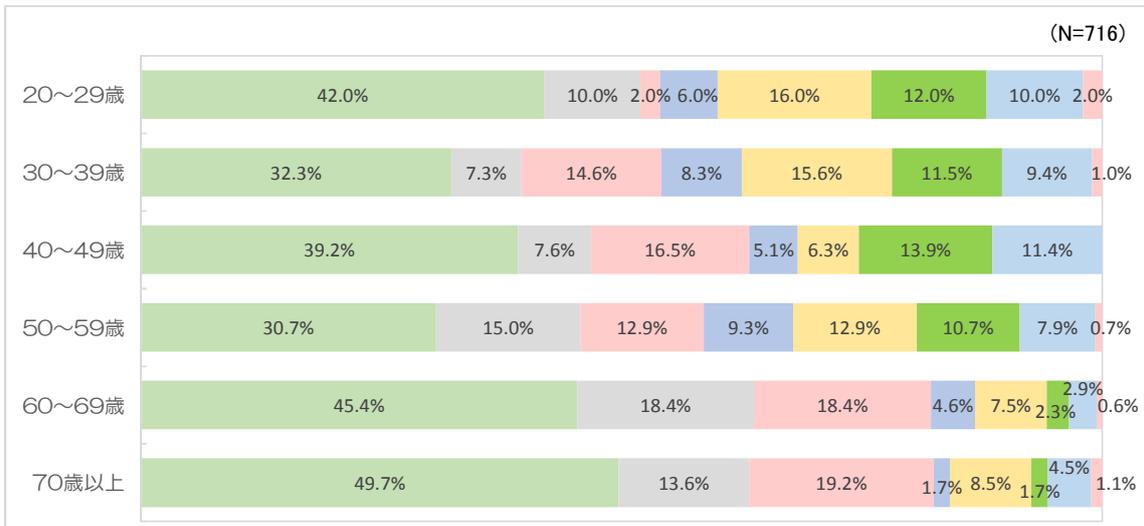
問10 あなたは将来も現在のお住まいに住み続けますか。(1つだけ選択)



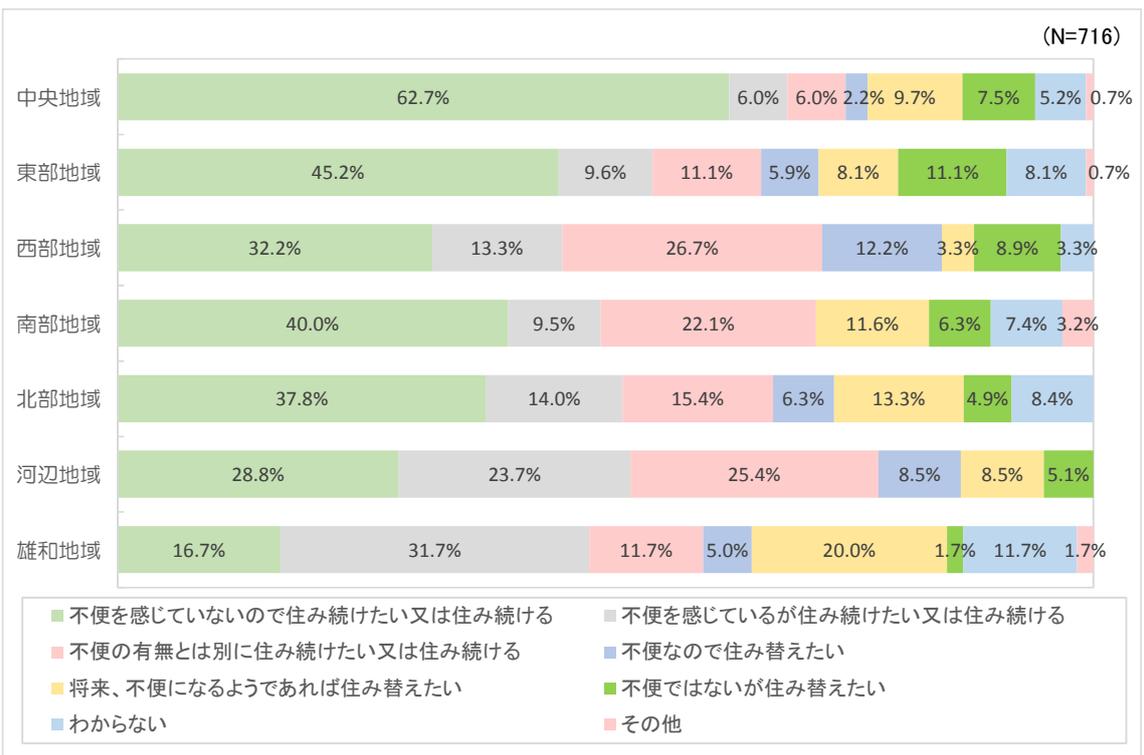
イ 「現在の地域に対する居住意向×年代」および「現在の地域に対する居住意向×居住地域」のクロス集計

- 年代別で、そのまま「現在の地域に住み続けたい又は住み続ける」とする割合はすべての年代で高く、特に「60～69 歳 (82.2%)」と「70 歳以上 (82.5%)」では 8 割を越えている。
- 不便かそうでないかは別に、「住み替えたい」とする割合は、「20～29 歳 (34.0%)」、「30～39 歳 (35.4%)」、「50～59 歳 (32.9%)」で高く、3 割を越えている。
- 「不便の有無とは別に住み続けたい又は住み続ける」の割合は、「20～29 歳 (2.0%)」で他年代と比較して低くなっている。
- 地域別で、そのまま「現在の地域に住み続けたい又は住み続ける」とする割合は、全ての地域で高く、特に「中央地域 (74.6%)」、「西部地域 (72.2%)」、「南部地域 (71.6%)」、「河辺地域 (78.0%)」で高く、7 割を越えている。
- 「不便を感じていないので住み続けたい又は住み続ける」の割合は、「中央地域 (62.7%)」で他地域と比較して高くなっている。

【年代別集計】



【地域別集計】

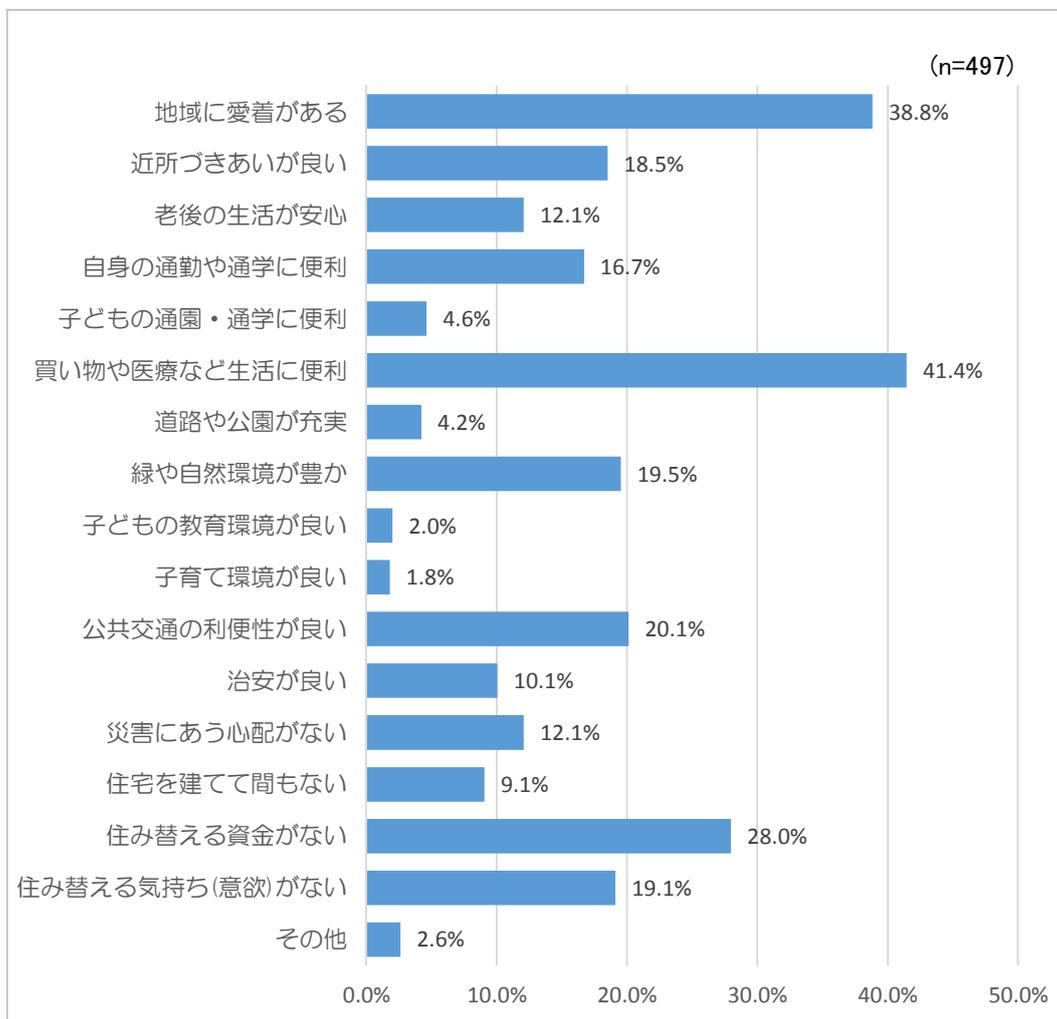


(2) 住みたい理由 (問 10 で「住みたい又は住み続ける」を選択した人を対象)

ア 全体集計

・住みたい理由の割合は、「買い物や医療など生活に便利」が 41.4%で最も高く、次いで「地域に愛着がある (38.8%)」、「住み替える資金がない (28.0%)」の順になっている。

問 11 住みたいとする理由はどのようなことですか。(3 つまで選択)

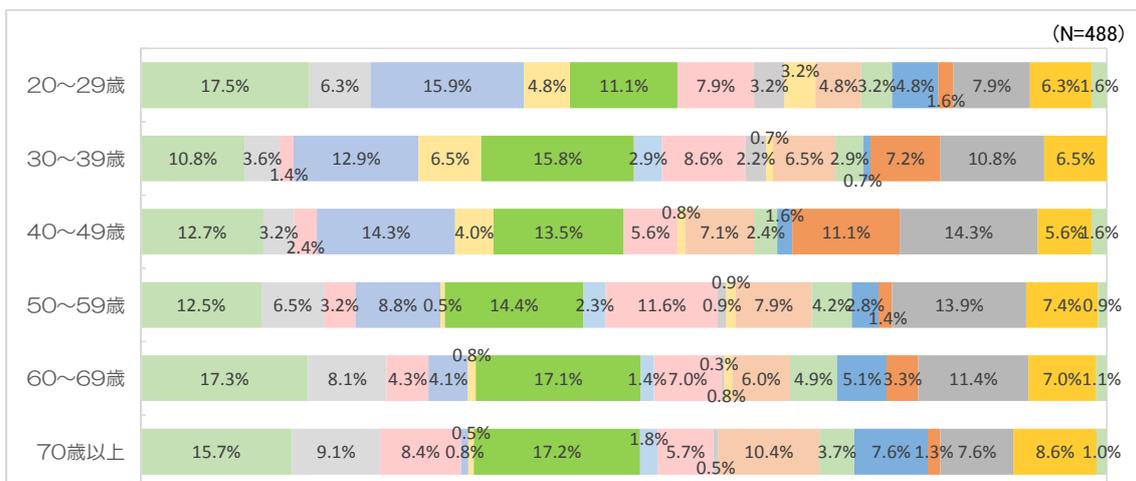


※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は 100%にならない。

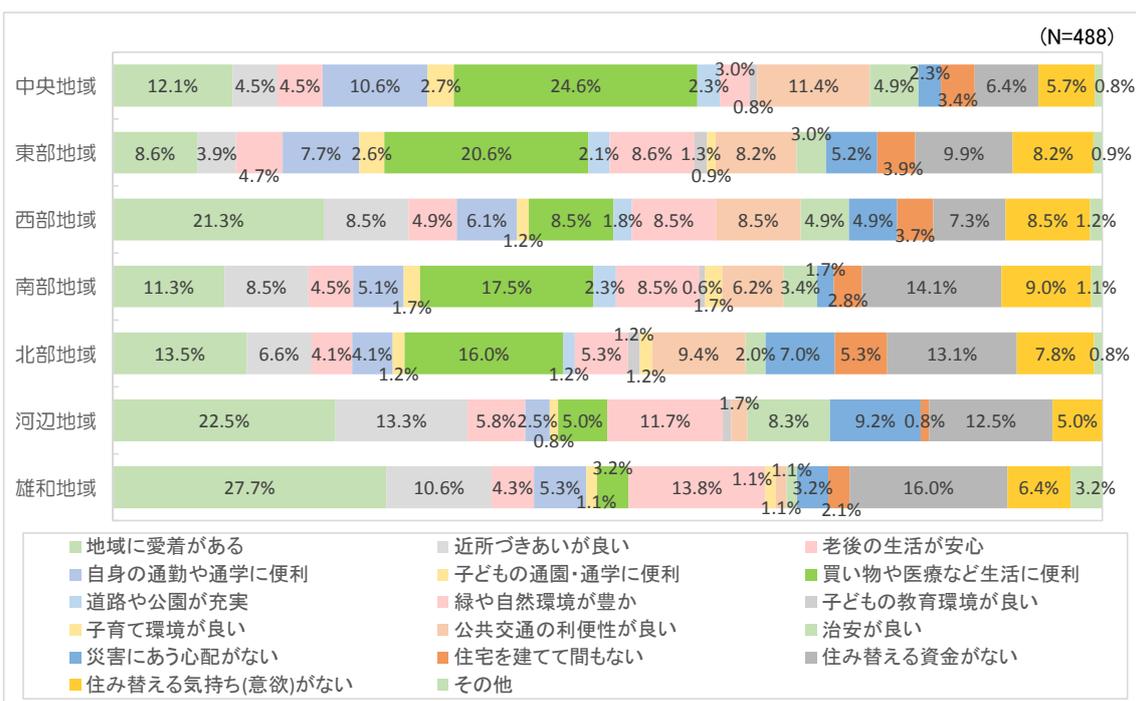
イ 「住みたい理由×年代」および「住みたい理由×居住地域」のクロス集計

- ・年代別では、「20～29歳（17.5%）」と「60～69歳（17.3%）」で「地域に愛着がある」、「30～39歳（15.8%）」、「50～59歳（14.4%）」、「70歳以上（17.2%）」で「買い物や医療など生活に便利」、「40～49歳」では「自身の通勤や通学に便利（14.3%）」、「住み替える資金がない（14.3%）」の割合が高くなっている。
- ・地域別では、「中央地域（24.6%）」、「東部地域（20.6%）」、「南部地域（17.5%）」、「北部地域（16.0%）」で「買い物や医療など生活に便利」、「西部地域（21.3%）」、「河辺地域（22.5%）」、「雄和地域（27.7%）」で「地域に愛着がある」の割合が高くなっている。
- ・「住み替える資金がない」については、「南部地域（14.1%）」、「北部地域（13.1%）」、「河辺地域（12.5%）」、「雄和地域（16.0%）」で、1割を越えている。

【年代別集計】



【地域別集計】

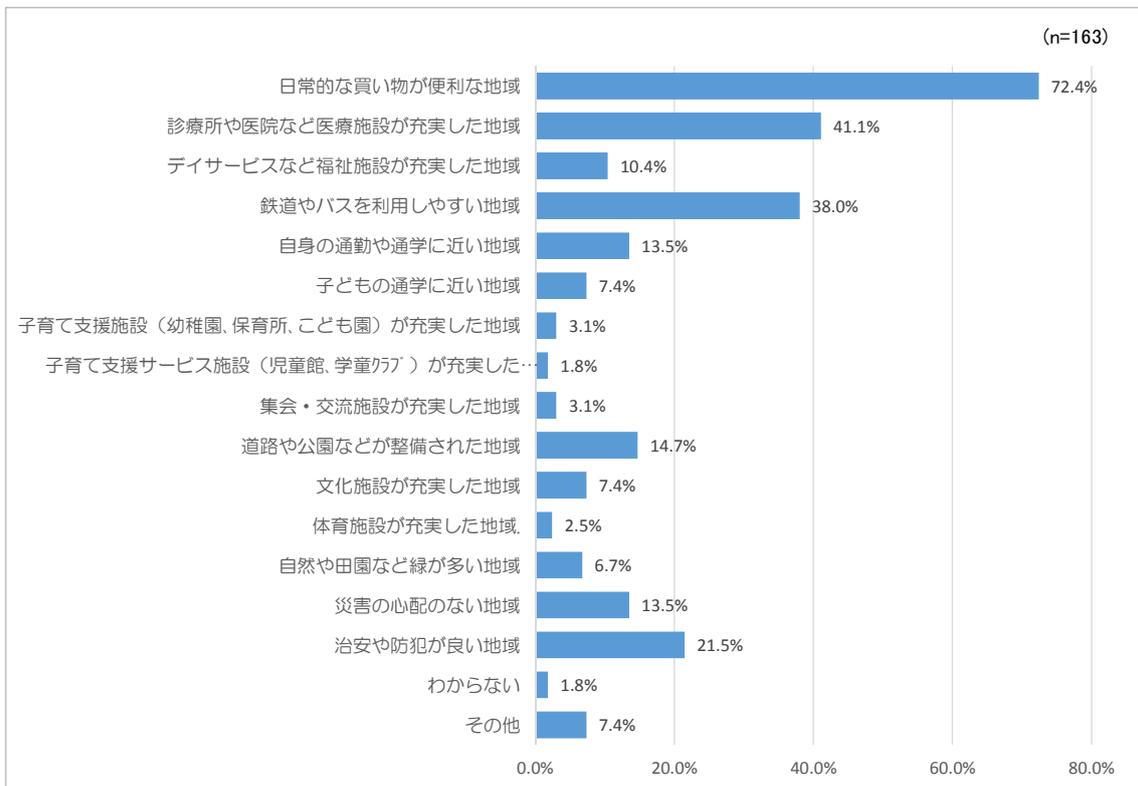


(3) 住み替える場合に希望する地域のイメージ（問 10 で「住み替えたい」を選択した人を対象）

ア 全体集計

・住み替えを希望する地域の条件の割合は、「日常的な買い物が便利な地域」が 72.4% で最も高く、次いで「診療所や医院など医療施設が充実した地域（41.1%）」、「鉄道やバスを利用しやすい地域（38.0%）」の順になっている。

問 12 住み替えるとしたらどのような場所を選択しますか。（3 つまで選択）

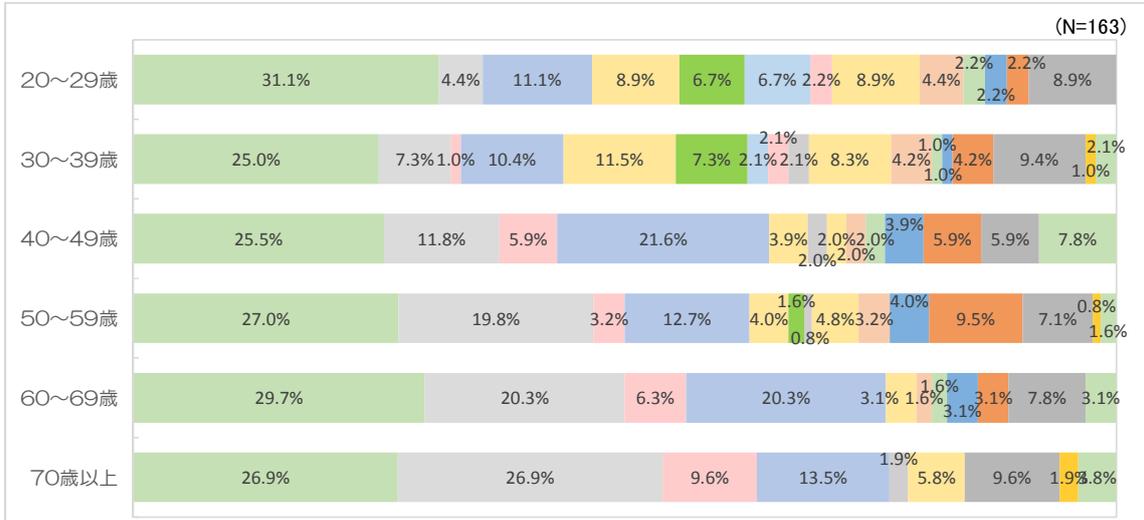


※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は 100%にならない。

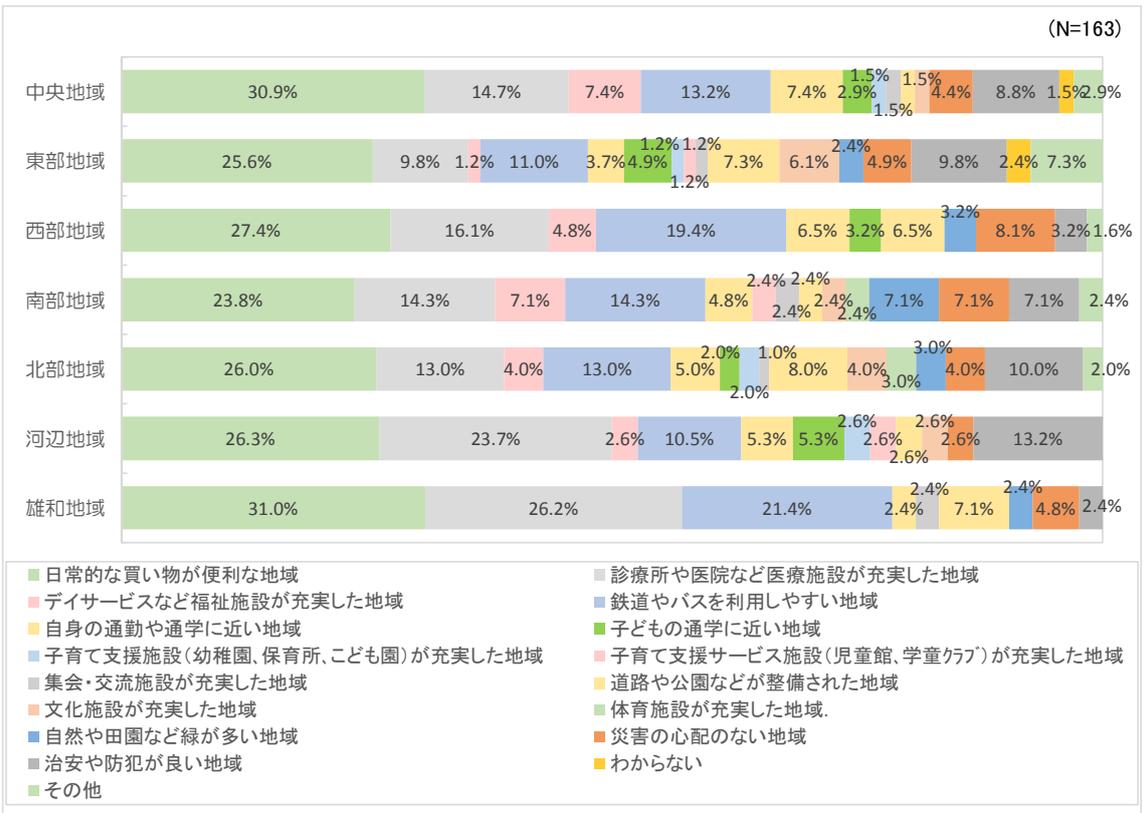
イ 「住み替える場合に希望する地域のイメージ×年代」および「住み替える場合に希望する地域のイメージ×居住地域」のクロス集計

- ・年代別では、すべての年代で「日常的な買い物が便利な地域」の割合が高くなっている。
- ・「診療所や医院など医療施設が充実した地域」については、「70 歳以上 (26.9%)」では、「日常的な買い物が便利な地域」と同じく高い割合になっているが、「20～29 歳」では 4.4%となっており、年代が下がるにつれて割合は低くなっている。
- ・「鉄道やバスを利用しやすい地域」については、「40～49 歳 (21.6%)」と「60～69 歳 (20.3%)」で 2 割を越えており、他年代と比較して高い割合となっている。
- ・地域別では、すべての地域で「日常的な買い物が便利な地域」の割合が高くなっている。
- ・「診療所や医院など医療施設が充実した地域」については、「河辺地域 (23.7%)」と「雄和地域 (26.2%)」で 2 割を越えており、他地域と比較して高い割合となっている。
- ・「鉄道やバスを利用しやすい地域」については、「西部地域 (19.4%)」と「雄和地域 (21.4%)」で、他地域と比較して高い割合となっている。

【年代別集計】



【地域別集計】



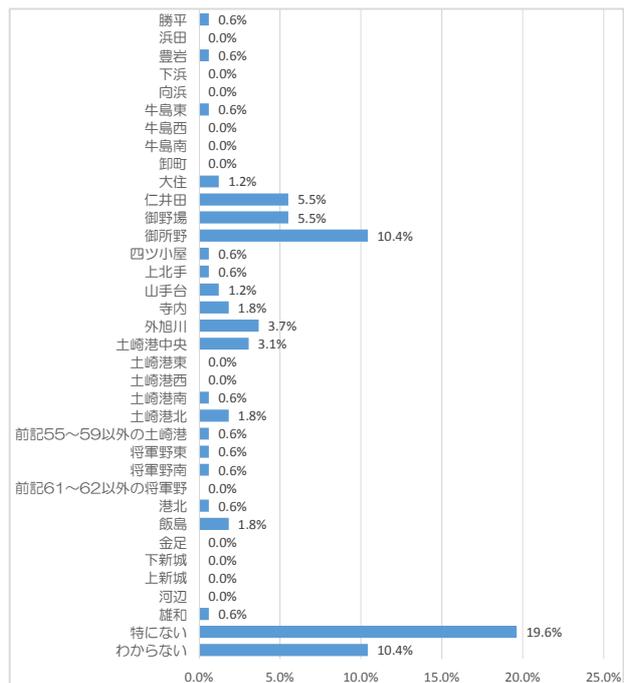
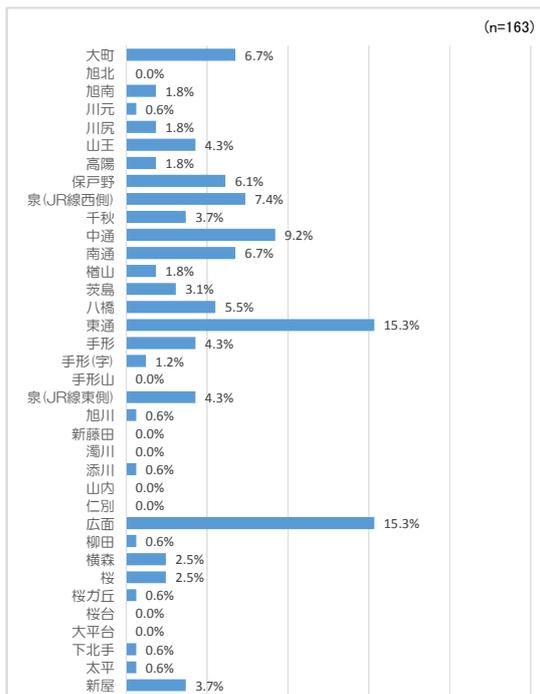
(4) 住み替える場合に希望する市内の地区（問 10 で「住み替えたい」を選択した人を対象）

ア 全体集計

・住み替えを希望する市内の地区の割合は、「特にない（19.6%）」と「わからない（10.4%）」を除くと「東通」と「広面」がともに15.3%と最も高く、次いで「御所野（10.4%）」、「中通（9.2%）」の順となっている。

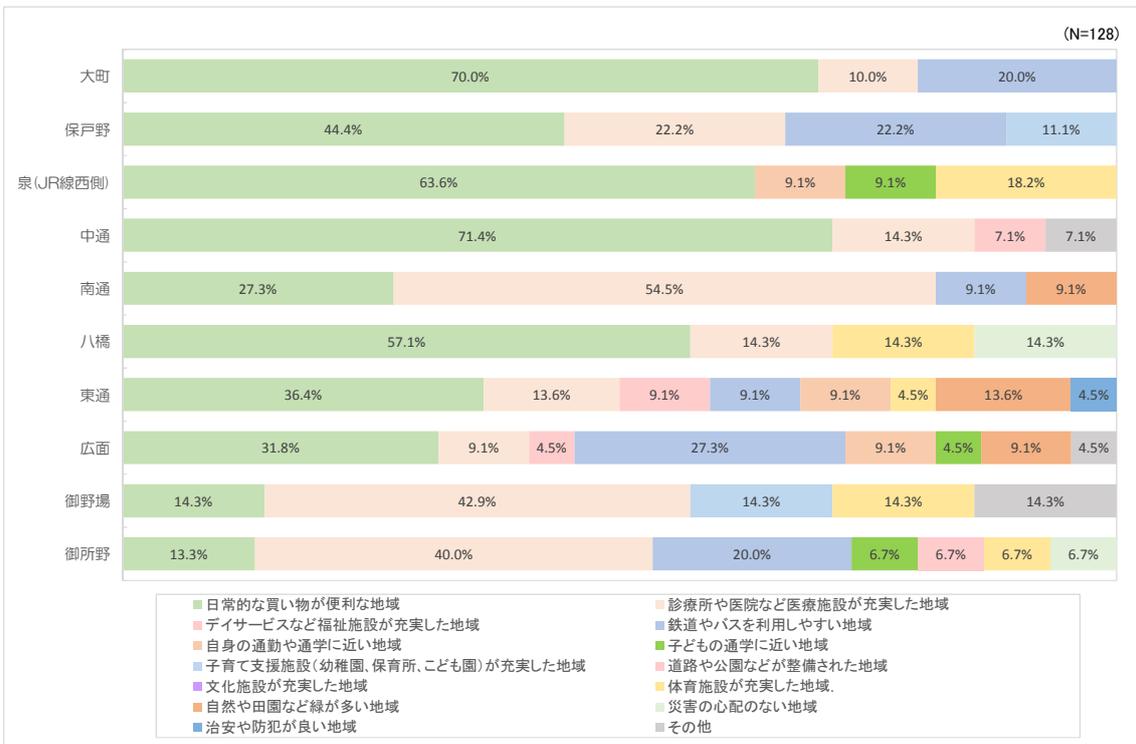
問 13 住み替えるとしたら市内のどの地区を選択しますか。（3 つまで選択）

※下記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は 100%にならない。



イ 「住み替える場合に希望する地域のイメージ×住み替える場合に希望する市内の地区」のクロス集計（上位10地区）

- ・「大町（70.0%）」、「保戸野（44.4%）」、「泉（JR線西側）（63.6%）」、「中通（71.4%）」、「八橋（57.1%）」、「東通（36.4%）」、「広面（31.8%）」で、「日常的な買い物が便利な地域」の割合が高くなっている。
- ・「南通（54.5%）」、「御野場（42.9%）」、「御所野（40.0%）」で、「診療所や医院など医療施設が充実した地域」の割合が高くなっている。
- ・「大町（20.0%）」、「保戸野（22.2%）」、「広面（27.3%）」、「御所野（20.0%）」で、「鉄道やバスを利用しやすい地域」の割合が、他地域と比較して高くなっている。



「年齢別」の上位3地区

	地区	票数
20～29歳 (N=17)	東通	4
	御所野	3
	山王	2
	新屋	2
	御野場	2
30～39歳 (N=34)	東通	7
	広面	7
	保戸野	4
	泉(JR線西側)	4
	八橋	4
40～49歳 (N=20)	広面	6
	東通	3
	仁井田	3
50～59歳 (N=46)	中通	8
	東通	7
	広面	6
60～69歳 (N=25)	南通	4
	広面	4
	東通	3
70歳以上 (N=21)	中通	4
	御所野	4
	大町	2
	山王	2
	保戸野	2
	泉(JR線西側)	2
	南通	2
	御野場	2

「地域別の上位3地区

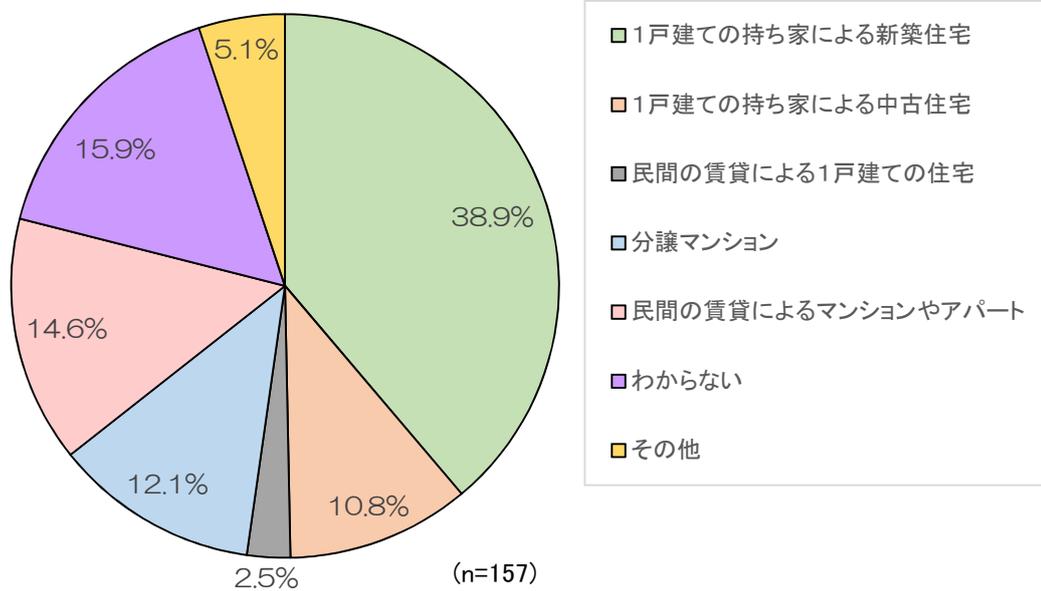
	地区	票数
中央地域 (N=26)	大町	4
	中通	4
	山王	3
	保戸野	3
	泉(JR線西側)	3
	千秋	3
東部地域 (N=34)	東通	10
	広面	8
	泉(JR線東側)	5
西部地域 (N=22)	東通	6
	泉(JR線西側)	3
	南通	3
南部地域 (N=17)	広面	3
	大町	2
	茨島	2
	大住	2
	御野場	2
北部地域 (N=35)	八橋	6
	広面	6
	東通	5
	外旭川	5
河辺地域 (N=13)	御所野	6
	広面	4
	東通	2
	手形	2
	仁井田	2
	御野場	2
雄和地域 (N=16)	御所野	7
	御野場	4
	中通	3

(5) 住み替える場合に希望する居住形態（問 10 で「住み替えたい」を選択した人を対象）

ア 全体集計

・住み替えで希望する居住形態の割合は、「1戸建ての持ち家による新築住宅」が38.9%と最も高く、次いで「わからない（15.9%）」、「民間の賃貸によるマンションやアパート（14.6%）」の順となっている。

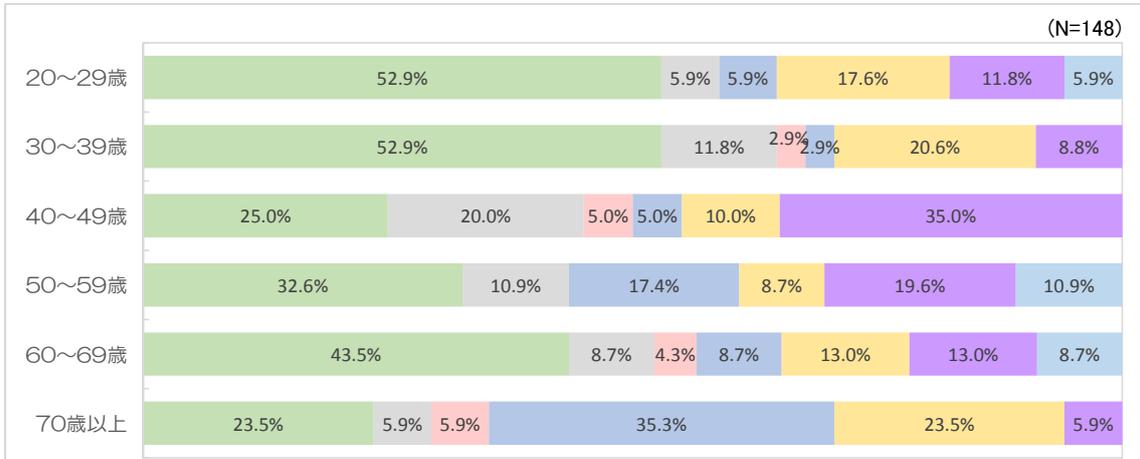
問 14 住み替えるとしたらどのような居住形態を希望しますか。（1つだけ選択）



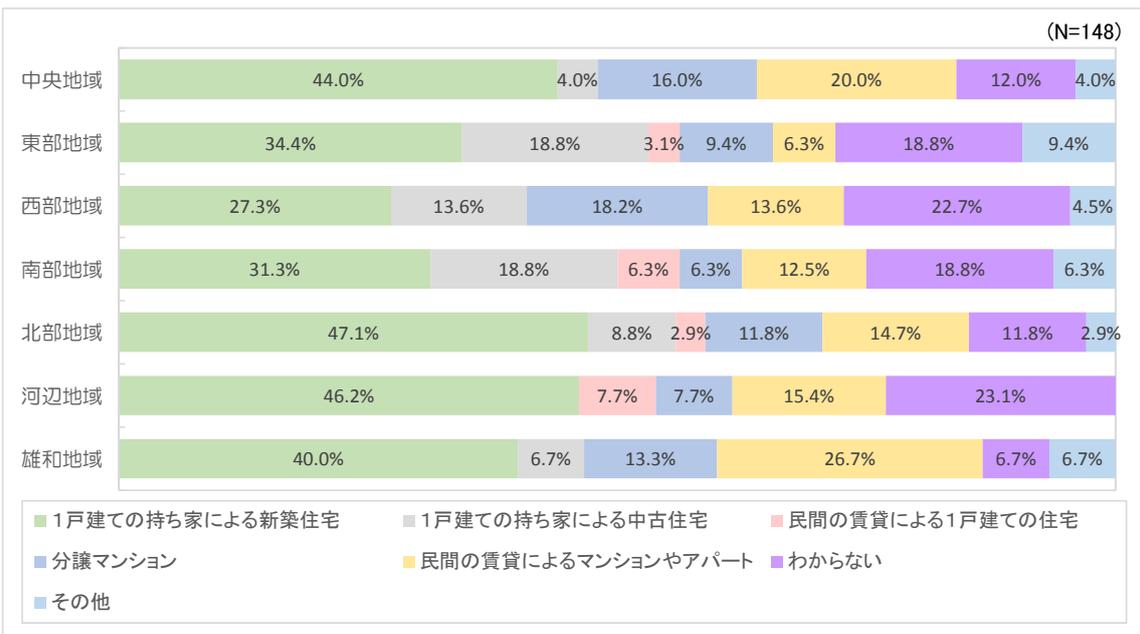
イ 「住み替える場合に希望する地域のイメージ×年代」および「住み替える場合に希望する地域のイメージ×居住地域」のクロス集計

- 年代別では、「20～29 歳 (52.9%)」、「30～39 歳 (52.9%)」、「50～59 歳 (32.6%)」、60～69 歳 (43.5%)」で、「1 戸建ての持ち家による新築住宅」、「40～49 歳 (35.0%)」で「わからない」、「70 歳以上 (35.3%)」で「分譲マンション」の割合が高くなっている。
- 「1 戸建ての持ち家による中古住宅」の割合は、「40～49 歳 (20.0%)」で他年代と比較して高くなっている。
- 「民間の賃貸によるマンションやアパート」の割合は、「30～39 歳 (20.6%)」、「70 歳以上 (23.5%)」で他年代と比較して高くなっている。
- 地域別では、すべての地域で「1 戸建ての持ち家による新築住宅」の割合が高くなっている。
- 「民間の賃貸によるマンションやアパート」の割合は、「東部地域 (6.3%)」で他地域と比較して低くなっている。

【年代別集計】



【地域別集計】

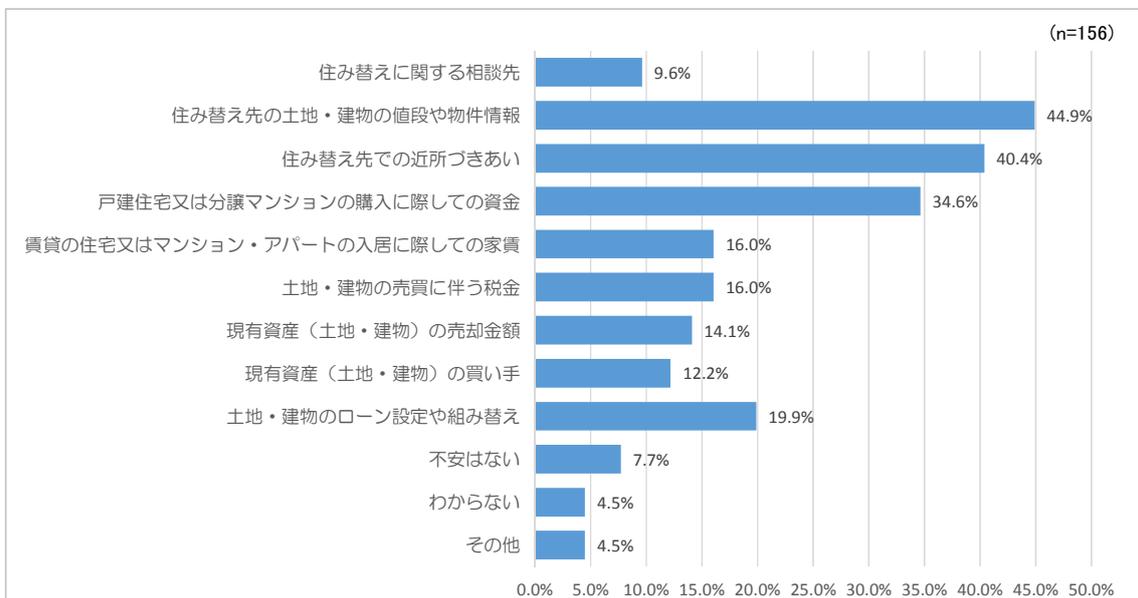


(6) 住み替える場合の不安（問 10 で「住み替えたい」を選択した人を対象）

ア 全体集計

・住み替えにあたって不安に思うことの割合は、「住み替え先の土地・建物の値段や物件情報」が 44.9%と最も高く、次いで「住み替え先での近所づきあい（40.4%）」、「戸建住宅又は分譲マンションの購入に際しての資金（34.6%）」の順となっている。

問 15 住み替えにあたって不安に思うことはなんですか。（3 つまで選択）

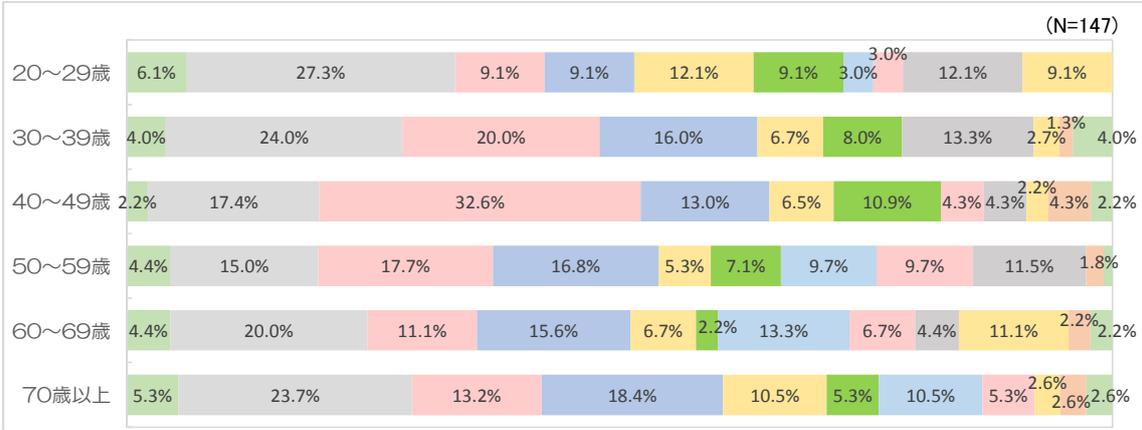


※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は 100%にならない。

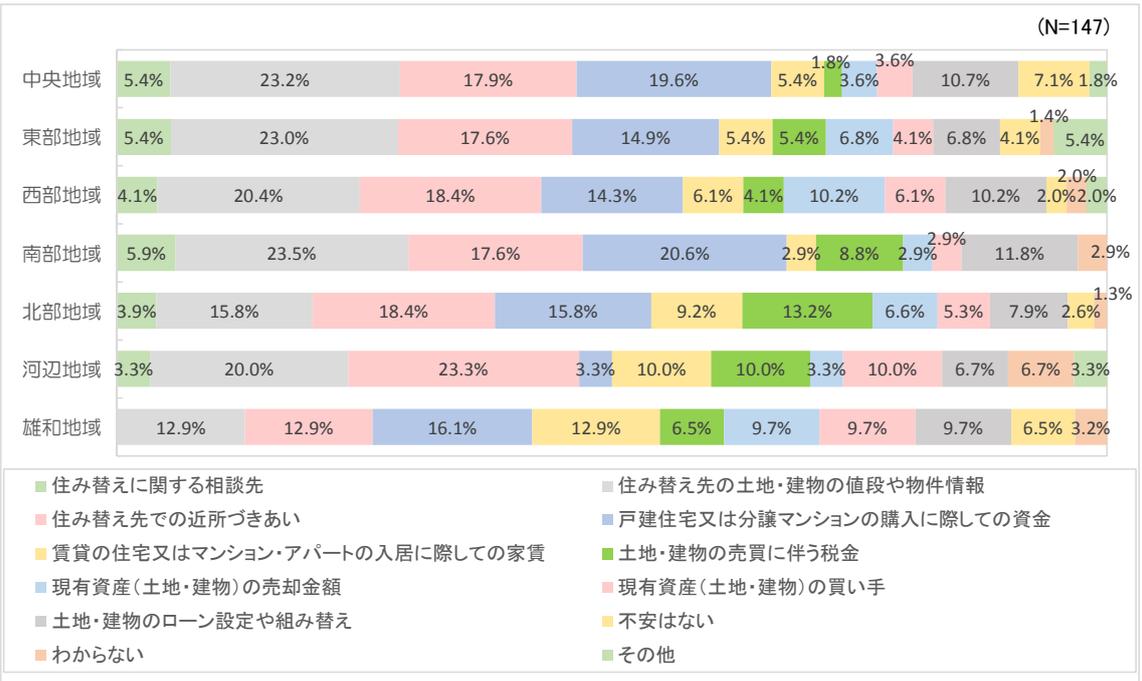
イ 「住み替える場合の不安×年代」および「住み替える場合の不安×居住地域」のクロス集計

- ・年代別では、「20～29歳（27.3%）」、「30～39歳（24.0%）」、「60～69歳（20.0%）」「70歳以上（23.7%）」で「住み替え先の土地・建物の値段や物件情報」、「40～49歳（32.6%）」、「50～59歳（17.7%）」で「住み替え先での近所づきあい」の割合が高くなっている。
- ・「戸建住宅又は分譲マンションの購入に際しての資金」の割合は、「20～29歳（9.1%）」で他年代と比較して低くなっている。
- ・地域別では、「中央地域（23.2%）」、「東部地域（23.0%）」、「西部地域（20.4%）」、「南部地域（23.5%）」で「住み替え先の土地・建物の値段や物件情報」、「北部地域（18.4%）」、「河辺地域（23.3%）」で「住み替え先での近所づきあい」、「雄和地域（16.1%）」で「戸建住宅又は分譲マンションの購入に際しての資金」の割合が高くなっている。
- ・「戸建住宅又は分譲マンションの購入に際しての資金」の割合は、「河辺地域（3.3%）」で他地域と比較して低くなっている。

【年代別集計】



【地域別集計】



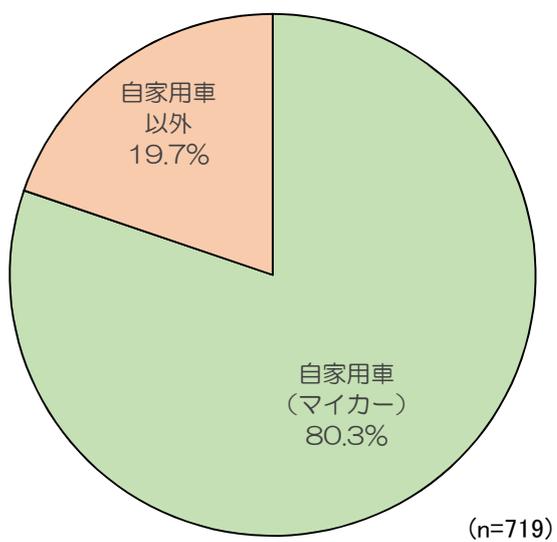
4. 交通手段

(1) 普段の交通手段

ア 全体集計

・ 普段の交通手段の割合は、「自家用車（マイカー）」が 80.3%となっている。

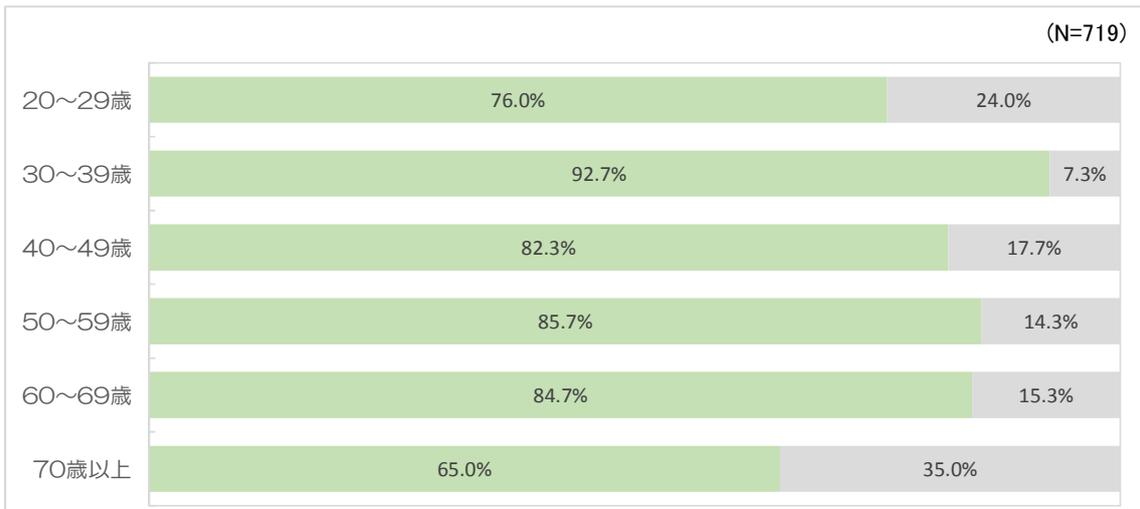
問 16 あなたの普段の交通手段は自家用車（マイカー）ですか。（1つだけ選択）



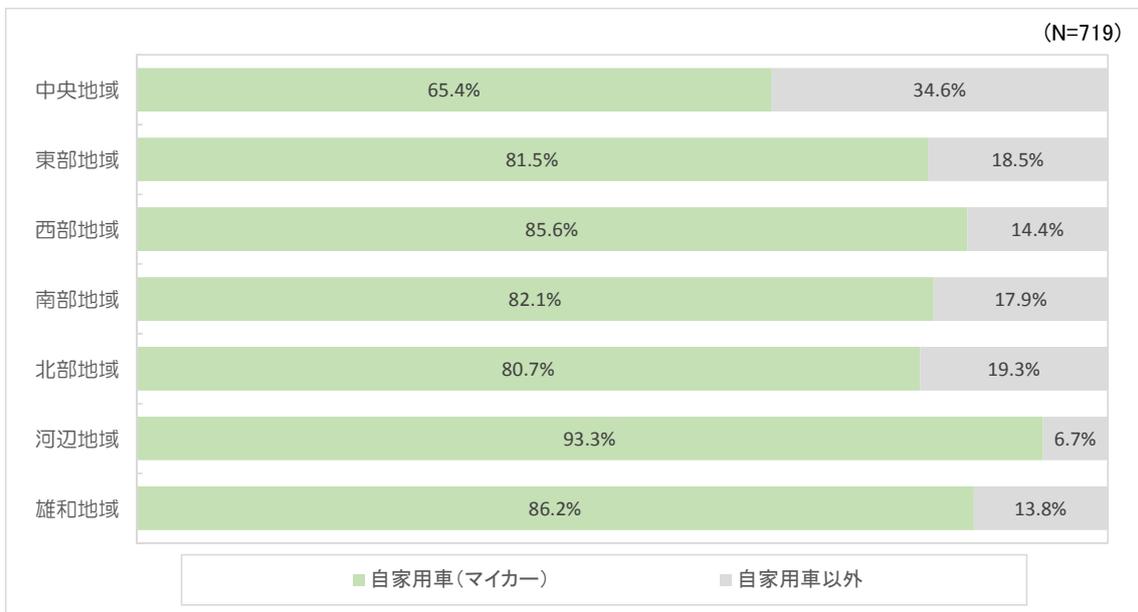
イ 「普段の交通手段×年代」 および「普段の交通手段×居住地域」のクロス集計

・年代別、地域別ともに、すべての年代、すべての地域で「自家用車（マイカー）」の割合が高くなっている。

【年代別集計】



【地域別集計】

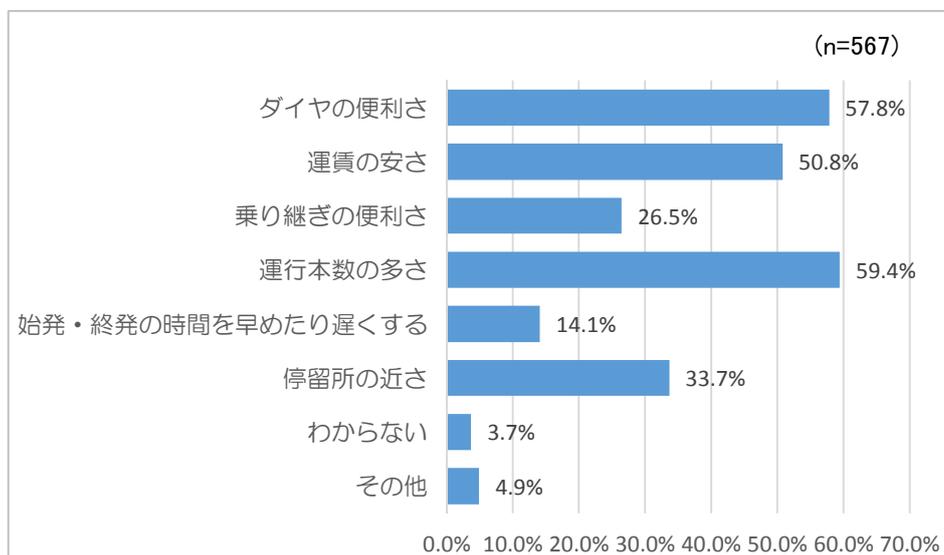


(2) バスを利用する条件（問 16 で「自家用車（マイカー）」を選択した人を対象）

ア 全体集計

・バスを利用する条件の割合は、「運行本数の多さ」が 59.4%と最も高く、次いで「ダイヤの便利さ（57.8%）」、「運賃の安さ（50.8%）」の順となっている。

問 17 あなたが今よりもバスを利用するためには、どのような条件が必要ですか。（3 つまで選択）



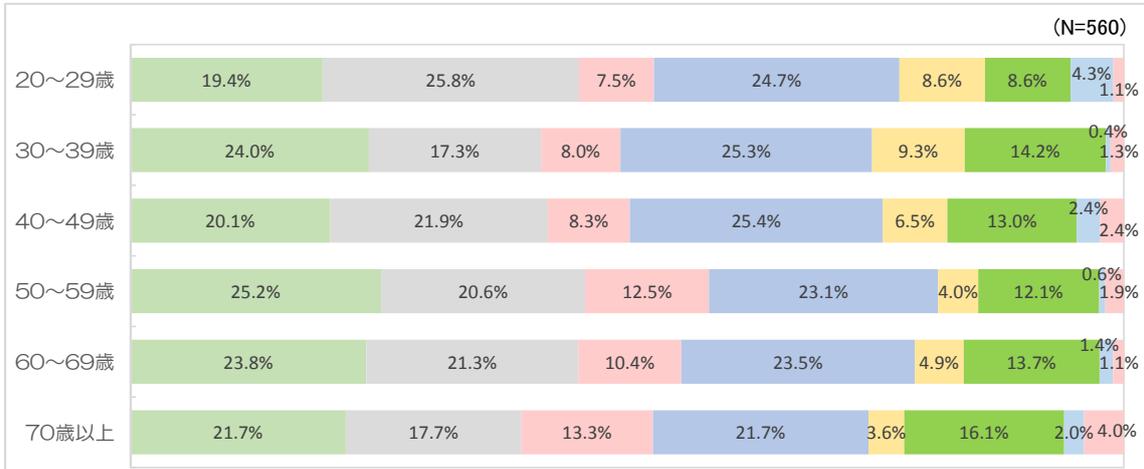
※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は 100%にならない。

イ 「バスを利用する条件×年代」および「バスを利用する条件×居住地域」のクロス集計

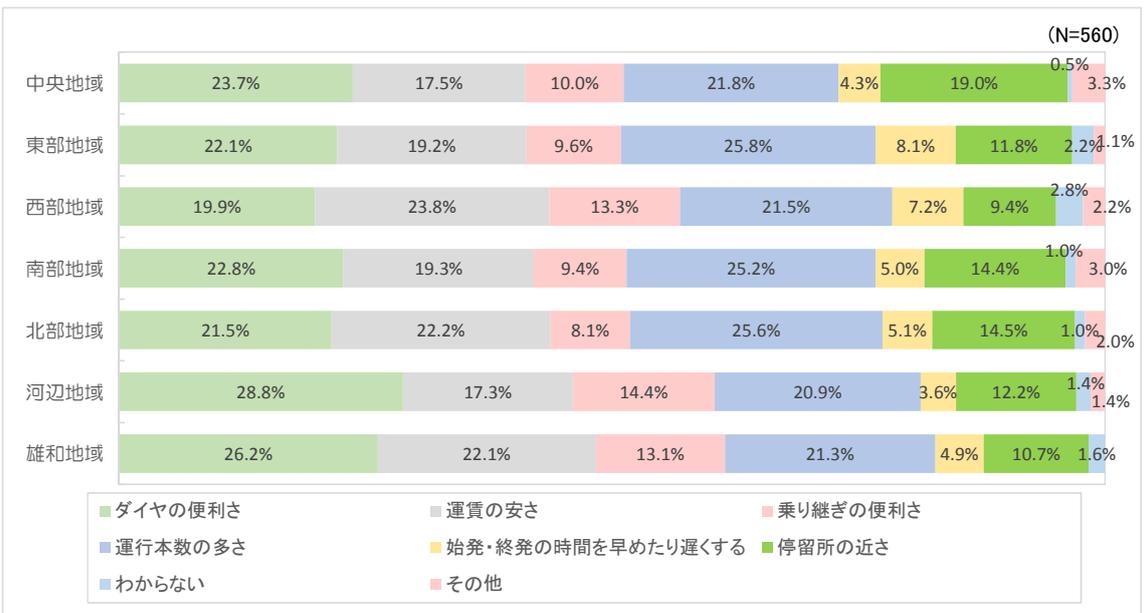
・年代別では、「20～29 歳」で「運賃の安さ（25.8%）」、「30～39 歳（25.3%）」、「40～49 歳（25.4%）」、「60～69 歳（23.5%）」で「運行本数の多さ」、「50～59 歳」で「ダイヤの便利さ（25.2%）」、「70 歳以上」で「ダイヤの便利さ（21.7%）」、「運行本数の多さ（21.7%）」の割合が高くなっている。

・地域別では、「中央地域（23.7%）」、「河辺地域（28.6%）」、雄和地域（26.2%）」で「ダイヤの便利さ」、「東部地域（25.8%）」、「南部地域（25.2%）」、「北部地域（25.6%）」で「運行本数の多さ」、「西部地域（23.8%）」で「運賃の安さ」の割合が高くなっている。

【年代別集計】



【地域別集計】



5. 自由意見（「コンパクトシティの取組」や「立地適正化計画の策定」について）

・自由意見は、167人から259件の意見が寄せられた。その中で意見が多かったのは、「公共交通（バス）について（56件）」、「商業施設について（23件）」、「コンパクトシティに賛成（12件）」、「駐車場の無料化について（11件）」、「働く場所・雇用の確保について（10件）」、「道路整備について（10件）」となっている。

■道路交通について

番号	項目	件数	内訳	件数
1	公共交通（バス）について	56件	本数を増やす	5件
			運賃を下げる	6件
			ダイヤ見直し	4件
			改善策の提案	10件
			不便・不満	14件
			ほか意見	17件
2	駐車場の無料化について	11件		
3	道路整備について	10件	道路整備	6件
			冬期交通	1件
			通学路、自転車・歩行者	3件
4	交通網整備について	7件		
5	新駅の設置について	4件		

■生活サービス施設や住宅について

番号	項目	件数	内 訳	件数
6	商業施設について	23 件	スーパー等について	16 件
			郊外への大型商業施設誘致	5 件
			駅前への大型商業施設誘致	2 件
7	住宅について	9 件	住宅について	6 件
			空き家について	3 件
8	公園、運動施設等の設置について	7 件		
9	高齢者や障がい者福祉施設の設置・充実について	6 件		
10	公共施設等の設置・充実について	5 件		
11	病院の設置・充実について	4 件		
12	保育所・学童保育設置・充実について	3 件	増設希望	

■施策について

番号	項目	件数	内 訳	件数
13	働く場所・雇用の確保について	10 件		
14	将来の生活資金に対する不安について	7 件		
15	教育について	4 件		
16	防災・防犯・交通安全について	3 件		

■行政について

番号	項目	件数	内 訳	件数
17	コンパクトシティに賛成	12 件		
18	コンパクトシティに反対	7 件		
19	立地適正化計画がわかりづらい	9 件		
20	秋田市の取組について反対	2 件		
21	市中心部以外の地域について	6 件		
22	相談窓口について	2 件		
23	現状に満足している	4 件		

■その他

番号	項目	件数	内 訳	件数
24	その他について	48 件		

合計 259 件

番号	意見要旨
1	<p>私は新屋に住んでいるので今は自分で通勤しているが、5年後はわからない。だから100円のコインバスはありがたいし、知人達もよく利用している。西部地区だけだと変化に乏しく飽きてくるので、駅周辺にも出かける回数も多くなる。その時、バスの本数が増えれば利便性が増してありがたいと思う。秋田には折角、美術大や教養大があるので、これから将来性のある子供達のためにプラスになる様、交流をして生かしていくべきだと思う。建物を建てることよりソフト面での活用を考えてほしい。学童の成績が全国トップクラスと喜んでいるだけではなく、現実に秋田に来てもらい、住んでもらわないと人口増はならない。充実して学校生活が送れ、成績もアップすることをPRしていくべき。マイナス面のみ、又、減少面だけ知られているので。行政に携わっている方々にもっとアイデアを出して頂き、レベルアップを望みます（これは主に秋田市でなく、県への要望になるのかもしれませんが）。【女性、60～69歳、西部】</p>
2	<p>公共交通機関の利便性があがればマイカー通勤をやめたいが、冬場の道路混雑事情もありなかなか踏み切れません。バスの運賃を下げれば本数を増やしてくれると助かります。【男性、40～49歳、北部】</p>
3	<p>外旭川駅を早く実現してください。【女性、60～69歳、北部】</p>
4	<p>「立地適正化計画の策定」とはどんなものかわからない。中身が具体的なものが不明である。【女性、70歳以上、西部】</p>
5	<p>高齢化が進み、空き家が増す町内の様子に防犯などの面からも不安を感じることがあります。近所づきあいもありなくなり、地元への愛着も感じてはいませんが、市への手続き、スーパーへの買い物等、現時点では徒歩で済ませられ、恵まれている状況です。現在は家族4人の生活ですが、夫婦2人の生活になった場合、またはどちらかが介護状態になった時などを考えると、具体的な相談窓口があればと希望しています。マイカーを持つ割合が多い秋田でバスの存続は難しい事とは思いますが、これから徒歩がづらくなった場合も考え、バスの運行が続くことを切に願っています。【女性、50～59歳、東部】</p>
6	<p>公共交通機関（とくにバス）網の整備・拡充を希望します。将来、自家用車を使用しなくなった時の交通手段を考慮しているためです。また経済的な問題・課題が前提にあるでしょうが、各地域に商店街が徒歩で行ける範囲にあれば「コンパクトシティ」に近いものになるのではと考えます（例えば通町商店街のイメージ）。秋田市は住みやすい場所ではありますが、秋田市のなかでも一極集中が進んでいるように感じますので、適切な分散化ができればさらに良いと思います。「自家用車がなくても住みやすい街」づくりがポイントなのではと、立地適正化計画を見て感じました。【男性、40～49歳、中央】</p>
7	<p>地域の高齢化が進み、このままでは中心市街地も過疎化になるのではないかと心配になるので、何か対策が必要だと日々感じております。【女性、50～59歳、中央】</p>
8	<p>秋田市は駅（JR）、官庁街、商店街が有機的に結びついていないため、一体感を出すためには交通ネットワークに工夫がいると思います。路面電車を復活させるなどどうですか。駅周辺は車の場合、一方通行が非常に不便です（対面にする手もある）。【男性、60～69歳、南部】</p>

番号	意見要旨
9	<p>いま住んでいる所から買い物に行くのに車で15～20分くらいかかります。道路も一本道なので山を切り開くなどして道路を作り、近くにスーパーやコンビニ等がほしい。何をやるにも車が必要なので将来が不安です（本人が書ける状態ではないので代筆と自分のいまの気持ちです）。近くに郵便局はありますがそれも車で行かないといけない距離で銀行もないです。本当に不便です。いま車を運転できますが、年を取って動けなくなったらどうなるのか。利便性の良い所に行きたくても資金がなく、それも無理です。【男性、70歳以上、北部】</p>
10	<p>市がコンパクトシティ化をこれからも行なうならば、北部地域の人口の減少は止まりません。北部に住んでいますが、わざわざ御所野まで買い物をしながら子どもと遊びに行っております。市の中心に行ったのは竿灯くらいのもので、駅を利用したのは3年前。コンパクトシティ化は居住している市民は望んでいないと思います。【男性、50～59歳、北部】</p>
11	<p>私どもの地域は雄物川の河川の氾濫がたびたびあり、通行不能となります。早期に道路の改修をお願いします。【女性、70歳以上、雄和】</p>
12	<p>外旭川にイオンを建設する意味が分かりません。近くに土崎店があり、車で30分くらいのところには中央、御所野店があるため建設する意味がありません。イオンより東京のキッザニアのようなものを建設したほうが活性化につながると思います。文化会館はなぜ現在地のまま計画が進んでいるのですか。あそこは交通が不便で建設したら必ず交通がマヒを起こすことが考えられます。議員さんで反対派の人の意見を取り入れたほうが良いと思います。駐車場やバス渋滞の問題が一気に解決します。高齢者には葬儀代金だけ市が負担し、浮いた額は若者支援に回して下さい。冬の対策として旧国道に融雪溝を作ってください。冬場路肩の雪で安全に歩けません。青森の融雪溝は温泉水を利用していますが。土崎地区でもできないでしょうか。【男性、30～39歳、北部】</p>
13	<p><バス利用について>目的地まで乗り継がずに目的地近くのバス停で降りることは便利だが、ロスが多いと思われる（同じ目的で移動する人は少ないと思われるため）。短い区間に区切って往復して走り、区間をつなぐ形で様々な目的地へ到達できる仕組みにすれば、乗客率の向上とロスの解消になると思われる（運賃は低くおさえておくことで乗客率を上げる）。中心部の駐車場や施設利用時の駐車場で不便を感じるが、もっとバスに活躍してほしい。</p> <p><都市計画区域について>スポーツ立県の中心部として、スポーツ施設（体育館・球場・グラウンド・宿泊施設等を含めて）を充実させ、市内のみならず、県内・県外から団体利用や大会利用を誘致して、秋田県・秋田市の魅力をアピールし、住み続けたい町にしてほしい。【男性、40～49歳、中央】</p>
14	<p>地域包括の考え方として、生活の場を集約することが必要である。集約することで将来的に経費が減少し、安心・安全・効率の良い生活環境に費用を使うことが可能になると考える。過疎地にある住宅を生活便利の良い地域に移住できるスペースを確保して、負担なく生活を確保できる施策が急務と考える。個々の意向も大切ではあるが、1人や1世帯が暮らすために道路整備をしたり災害対策したりと、過大な費用をかけることは適切とは思わない。ある程度の強制力を持って、将来に向け役割を果たしていく必要があると考える。【男性、50～59歳、雄和】</p>

番号	意見要旨
15	私の住んでいる地区はバス停、駅が歩いて近いので、秋田駅方面へ行くのは便利だと思っております。またコンビニも近いですが、贅沢を言えば小さくてもスーパーがあればいいと近所の方々と話しています。【女性、60～69歳、北部】
16	高齢者が増え子どもが減少しているので良い計画だとは思いますが、一箇所に集中し栄えるのはどうなのか。モデル的にやるのは良いと思う。 【女性、30～39歳、北部】
17	コンパクトシティは良いと思いますが、いまの生活では中心地に新しい土地・マンションなど求めることは無理です。バスなどの便が良いと田舎でも住めます。できれば田舎に住み、バスなど交通がもっと安く・多く走ると良いと思います。 【女性、50～59歳、雄和】
18	1人1台ほぼ車を持って利用しているのに、コンパクトシティの取り組みの必要性がまったく理解できない。郊外にどんどん新しい施設を作って住むのは中心地のようにし、高齢化社会を見据えてなどと言っているが、何の楽しみ・おもしろみのないコンパクトシティに住みたいという若者がいるとは思えないし、どんどん県外へ出て行く現状を変えることができるとは思わない。自分がこれから年を取ったとしても、狭い地域のなかで日々の生活の利便性だけを考えて過ごすのは苦痛だと思う。【男性、30～39歳、中央】
19	バスの運行本数を増やしてほしい。【女性、50～59歳、西部】
20	少子高齢化が進み市内に空き家が増え続けるので、郊外に分譲地を作らせず、市内を再開発し、若い人々に安く住める住宅を提供するような取り組みをすることが良いと考えられる。空洞化を防ぎ、若い人・子どもたちの声が聞こえる街にしてほしい。郊外に分譲地が増えればライフラインが必要となり、公共維持費増になることは明らか。老朽化した上下水道等費用がかさむ。中途半端なコンパクトシティはやめてほしい。【男性、60～69歳、中央】
21	中央地域に文化会館や県民会館を移転しても駐車場が有料であれば市民は入場をためらうと考えるし、せっかく移転しても思ったほど入場しないことが考えられます。駐車場は広く、無料にしてほしいと思います。人口減少について、若者が流出しないように働ける場所をもっと考えてほしいと思います。高齢者も安心して生活できるようにお願いしたいと思います。今後は一人暮らしが増えると思われるので、安全・安心できるようお願いします。秋田市がもっと活気あふれる街になりますように。【女性、60～69歳、北部】
22	居住誘導区域がいったいどの地域を想定してこの計画が進められていくのかが住民として一番気になると思います。また居住誘導区域から外れてしまう地域に既存の人に、どのような施策を進めるのか説明することで、計画がスムーズに進められるのではないかと考えます。さらに私の住む南ヶ丘等、秋田県の施策で福祉区としたような地域についても、県との連携を取って秋田市単独の構想とならないことを願っています。【男性、30～39歳、南部】

番号	意見要旨
23	コンパクトシティの取り組みは反対です。住み替えのできない居住誘導区域に住んでいる住民が置き去りになる気がしない。中心市街地があんなに廃れて活気もないのに、いまさら大金をつぎ込んで中心だけ充実させてどうするのか。文化施設・スポーツ施設を新設しても、働く場所もなく娯楽施設もろくにないようなところに若者は残らないし、人口増になるとは思えない。【女性、60～69歳、北部】
24	ドーナツ現象は変わらずなので希望なし。旧住宅地の駐車場への変更が目立ち悲しい。高齢者の買い物、ガソリンスタンドの減少で灯油が宅配になる。【女性、40～49歳、中央】
25	旧秋田市ばかり注目されがちなので、雄和地域の活性化に尽力いただきたい。【女性、40～49歳、雄和】
26	秋田市だけが住みよいまちづくりを考えるのではなく、他市町村との連携も考えなくてはならないと思う。特に秋田市に近く感じるためには国道のバイパス化、高速道路の延長、秋田新幹線の複線化（時間短縮のため）。秋田県が開発に力を入れなければならないことは上記のほか、「企業誘致の活発化」「金融機関の提携」「観光場所の整備」などと思われる。【男性、50～59歳、東部】
27	高齢化が進み自家用車を運転できない人が増えるためバスのダイヤの見直し（特に病院へのルート。通院の便が良くなるように）。学童保育がまったく足りておらず子育てしにくい。文化施設か買い物する場を郊外よりも中心に集めること。【男性、30～39歳、東部】
28	秋田市が都会と同じである必要はない。県外や国外に移住者を求める必要はない。【男性、50～59歳、東部】
29	秋田駅前がもっとにぎやかになるように駐車場を無料にしてほしいです。秋田市全体がたくさん活性化できるようにしてほしいです。【男性、20～29歳、西部】
30	コンパクトシティについては他の都市でも取り組まれていることがテレビのニュースなどで報道されています。うまくいっている部分もあるかとは思いますが、長期的な施策ということもあり、なかなか行政として想定しているような都市の集約化が図れていないという問題点がありそうです。秋田を含めた地方都市では新築の一戸建て住宅のニーズが高いと思います。そうすると住宅の価格も高くなるので土地の高い地域に住宅を建てるのが難しいケースも出てくると思います。もし積極的に居住誘導区域に住居を建てて人口密度を維持していくのであれば補助金を出したり、住居や土地に対する税金を優遇するなどの施策は効果的だと思います（いろいろ問題はありそうですが）。またコンパクトシティの柱のひとつである医療・福祉については、更なる高齢化に対応可能な施策が望まれます。高齢化が進み、認知症の方も増えていますが、その症状のため行き場のない方が多くいらっしゃいます。進行した認知症の方はガン等の病気が見つかって、ほとんどの方は積極的な治療はできず緩和医療を行なっています。短期的には急性期病院（総合病院）で対応していますが、長期的に診てもらえる施設や病院はとても少ないです。このような方が入所して最後安らかに亡くなることのできる場所も必要だと思います（個人的には、秋田市には急性期病院が多いと思います。市立病院あたりが看取り中心とした病院としてリニューアルしてもよいかもしれません）。【男性、30～39歳、東部】

番号	意見要旨
31	<p>秋田市の行政の中心が山王・臨海に広がり本来の大町から遠くなっています。秋田市全体ではコンパクトシティ構想の実現は無理との判断から各地域ごとに集約したいとの考えによるものと思いますが、ある程度の強制力を持たなければ、現状、住居の移動は無理と考えます。「この地区にはいまお宅と〇〇さんの2軒しか住んでいません。除雪経費が無駄なので●●地区に移ってください」と言えますか（これを自主的に判断できるような魅力的な計画としてください）。</p> <p>【男性、50～59歳、北部】</p>
32	<p>いま住んでいる東通のアパートではTBS系が映るが、秋田ではそもそもTBS系が見れない。娯楽施設がないばかりか、都会では当たり前に見れるアニメ、TBS、テレビ東京等、放送局・テレビチャンネルも充実していないのでは秋田から人が出て行くばかりだと思う。バスも都会のようにSuica、Pasmoの導入や運賃を一律100～200円にしないと、いまの料金では高すぎて高齢者くらいしか乗らない。バスの運転手も都会みたいに愛想がないし、乗客を楽しませようとする意識がなく全然ダメ。タクシーはタクシーで愛想がないばかりか、赤信号でのフライング発車、ウインカーなしor1回での車線変更、速度制限無視のスピード運転、横断者がいるため歩道前で待っているにも関わらずクラクション鳴らし等、マナーが悪すぎてとても乗る気にならない。タクシー見ただけで吐き気がする。秋田駅の駐車場代も高すぎて、せめて1時間無料にすれば良い。30分だと移動だけで終わり、もう少し見て買い物したいのに何もできず終わってしまう。どうにかならないか。秋田に住んで29年の感想です。【男性、20～29歳、東部】</p>
33	<p>子どもの通学路の幅が狭く、車の往来も激しく危険である。今後まちづくりを計画するうえで重点課題として取り組んでもらいたい。【男性、40～49歳、中央】</p>
34	<p>現住所においては泉新駅の設置が早急に望まれる。外旭川イオンはぜひとも必要である。【男性、50～59歳、北部】</p>
35	<p>高齢化に伴い、医療施設に近い場所へ移住したいと思います。</p> <p>【男性、50～59歳、雄和】</p>
36	<p>コンパクトシティを目指すためにも、現在使用している道路の整備と各コミュニティへのアクセスを考えた道路づくりを慎重に計画していただきたい。</p> <p>【男性、30～39歳、雄和】</p>
37	<p>外旭川にイオンをよろしく！【女性、60～69歳、北部】</p>
38	<p>現状は不便を感じていないが、高齢になって自立歩行が困難になったときの不安（買い物などの移動）。また施設（高齢者）の不足。秋田市職員の皆様、頑張ってください。応援しています！【男性、60～69歳、南部】</p>
39	<p>地区を数分化し、医療等すべての機能を分化した形に計画すべきと考える。天災に対する備え、また、地下施設（退避場所）等の建設も考えてはどうか。</p> <p>【男性、60～69歳、西部】</p>
40	<p>町内会等の組織をより強固なものとし、防災等に役立てることが必要。行政等による指導も行ない、より組織率の高い集団を形成することが必要。</p> <p>【男性、30～39歳、南部】</p>

番号	意見要旨
41	<p>居住誘導区域内には日常の生活に必要な買い物等ができるお店等が必要最小限でも良いのであってほしい。日常通う頻度が高い施設は居住誘導区域内にあってほしい。都市機能誘導区域には毎日使用する施設というよりは、むしろ頻度はそれなりの重要な施設を集積してほしい。大変な課題に取り組み大変とは存じますが将来の素晴らしい秋田のために無理はせずがんばってください。期待しております。</p> <p>【男性、40～49 歳、東部】</p>
42	<p>現在に満足している。【男性、70 歳以上、中央】</p>
43	<p><連携する公共交通について>人口 30 万規模の中核市では地下鉄やモノレールなどは設置の経費や利用者数からしてまったく現実味のないことである。そこでバスに注目せざるを得ないが、すぐ可能なことは次の 2 点が考えられる。①幹線道路のバスレーンの完全化 ②バスターミナルの移動及び複数化</p> <p>※アンケート項目がもっと多くても良いと感じました。【男性、70 歳以上、西部】</p>
44	<p>私の妻は他県から嫁いできました。幼い子どもが 2 人いるなか、これからのことを考え、縁もゆかりもない秋田市に住居を構えました。若者の視点から見て、休日出かけるとなると御所野のイオンしかないという事実は本当にやりきれないと言っています。家族連れだけではなく子ども同士、恋人同士、そこしか行く場所・娯楽がない。駅前に行くにも物価が高く、公共交通料金もかかる。かといって御所野以外の娯楽施設を作ろうともしない、作る気もない。これでは秋田市に魅力を感じず、少子化・人口流出をしても仕方ないことだと思います。県外から知人が来ても紹介しようと思える場所もありません。コンパクトシティの恩恵も魅力も、私を含め周りの人々にも何も伝わっていません。超高齢化社会を迎えるにあたり高齢の方々を手厚くすることはもちろん大切なことだとわかっていますが、これからの担う子どもたちが秋田市にいたい、秋田に暮らしたい、そう思えるものを整備することが急務なのではないでしょうか。暖かい秋田県民の方々がいるのに衰退を待つばかりでは残念でなりません。意味のあるものになりますよう、どうぞよろしく願います。【男性、30～39 歳、北部】</p>
45	<p>計画の役割と効果に関して拝見しましたが、私がいま感じていることは「働きづらさ」です。高齢の方々の職場イジメが所々であるのが現状です。コンパクトシティを実現したとして、そういった根本的なところをきちんと変えていかなければ、コンパクトシティからは人が離れていくばかりだと思います。人が多く来店するのにも関わらず、賃金や条件が厳しい。「主婦・時給 730 円、週 5 日必須」など、どう考えてもゆとりが足りない。確かに中心地に色々な施設が集まるのはとても魅力的ではありますが、私は以前東京・埼玉に住んでいたのですが、決まってそういった改革、まちづくりが仕上がったのち、高い税金を取られるようになってしまいました。この「働きづらい環境」のまま住民税があがってしまったらどうしようと不安もあります。私は職場の“違和感”で退職しました。友人からの仕事を紹介したい（人手が足りないため）というお話も、その方自身、高齢の方からのイジメがひどくやめるため、私には紹介させてあげられない（申し訳ない状況のため）。このように私は現状不安と期待が 7:3 といったところです。都市計画課にはまったく関係なく、対処のしようがないことというのは重々承知ではありますが、私のようなことを思っている方が後々見当違いなクレームを出してくるのではないかと思います、このような意見を出させていただきました。【女性、20～29 歳、北部】</p>

番号	意見要旨
46	<p>住む地域の選定は先祖代々の土地・実家の近くで選ぶ市民が多いと思います。もちろん住む地域の利便性の良さは大切ですが、秋田市民として秋田駅前を中心とした都市計画を望みます。高齢になると車の運転もできなくなることを考えると、駅前への公共交通での移動ができ、行政サービス（福祉・医療の手続き）、買い物など住んでいる地域から秋田駅前に行けばすべて日常生活に必要なサービスができれば、安心して免許の返納もできると思います。広小路の空き店舗、一方通行の見直し、秋田駅前の開発に力を入れてください。【女性、50～59歳、北部】</p>
47	<p>「働き方」と「公共施設の運営」がイコールというべきか逆行というべきか…。例えばお休みだから土日にいっぱい遊びたいと思っても、バスのダイヤ（終バスが早い時間設定）のために自由がきかない。休みの前日だから映画を観て帰りたいと思っても、19時台以降の上映はない。冬季で足がないからこそ遅い時間までバスに走っていてほしいのに、走ってほしい時間には動いていない。特に雪の日は足を奪われるために「外出予定は入れない」という選択をせざるをえません。Aターンして約7年、運転しない（非正規だから物理的にマイカーを持つという選択はしづらい）人間は非県民のように言う人もいますが、住民が不便を感じているということは、イコール観光客の声でもあることを知ってください。いくら観光立県やインバウンドと言っても、「不便だから車を持つしかない」と考える多くの県民がいる以上、駐車場問題や高齢者の免許返納問題も解決に向かえとは思えないと私は考えます。能代や大館がやっているような市内循環バスの整備をご検討ください。市役所のみなさまもお忙しい毎日かとは思いますが、市民のためにこれからもご尽力のほどよろしくお願い申し上げます。【女性、30～39歳、東部】</p>
48	<p>外旭川にイオン大型店を作ってほしい。話がずっと進んでいないので、早期に設立をしてほしい。【男性、40～49歳、北部】</p>
49	<p>高齢化が進むなか、車がなくても住み続けていられるように公共交通をしっかりと体制にしてほしい。慣れたところに住み続けたいとみな思っているのではないか。集約された結果、取り残された人たちがもっと不便になることはないように住民の意見をしっかりと聞きながら進めてほしい。【女性、50～59歳、雄和】</p>
50	<p>80歳を超え運転免許返納も考えないといけないのに車の利便性に執着している現状です。高齢者・障がい者等、交通弱者の公共交通の移動手段の一層の方策をお願いしたい。行政手続き関係を自宅で可能な方法（出前手続き）ができれば助かる。【男性、70歳以上、西部】</p>
51	<p>計画そのものは大変良いと思います。そこで福祉の適正化を図るなかで、将来的な生活保護費の削減化を図るための居住区をすべてプレハブ住宅で集中管理し、公平な設定をして指導機能の充実を図り、増え続ける人員経費の削減案の一考に、市税の役割を少しでも軽減した未来のまちづくりを提案します。【男性、60～69歳、中央】</p>
52	<p>駅の発車時間に合ったバスの運行をしてほしい。【男性、70歳以上、河辺】</p>

番号	意見要旨
53	<p>「立地適正化計画のイメージ画」は理解するのがむずかしいです。後期高齢者一歩手前の女性です。現在住んでおります団地に居を構えて40年近くなりますが、車社会になったせいか公共交通の利便が悪く、また、スーパー等の買い物にも不便で車を使わざるを得ない状態です。1、2年前くらいには外旭川地区に大型ショッピングセンター及びアウトレット型の研修公共施設等ができるとの話があり、住民が多数散歩がてら行ける場所として大変期待しておりました。途中で計画が縁遠く(?)なり、その反面「なかいち」周辺が主に集客するような形になっているのでは、とますます市中心より近郊への配慮がなく、特に高齢・少子化が進んでいる地方への目がまったく感じられず、日々の生活に苦慮しております。免許返納も考えたいのですが、現在住んでいる団地は430軒中高齢者(75歳以上)が100名くらい、65歳以上は240名くらい居住しています。もう少し市中心より近郊住民の生活のことも一考してほしいと思います。【女性、70歳以上、中央】</p>
54	<p>行政が計画してもダメ。民間に任せるべき。こんなにバスの便が悪い状態でコンパクトシティを目指せば失敗する。駅から県庁まで210円はない。他の県庁所在地は100円。ダイヤが便利なのは駅～県庁市役所だけ。高齢化で車に乗れない人のことを考えるべき。【男性、60～69歳、東部】</p>
55	<p>秋田市の公共交通は大変不便で料金も高く、マイカーなしでは思うような生活ができないように感じます。バスがもっと安く、本数が多く便利であれば利用したいとは思いますが、現状では無理です。秋田市中心部(JR秋田駅～県庁・市役所)を周回するバスは100円、周辺各地から周回バス停までも100円であれば利用が増え、中心市街地も活性化し広域的な交流が生まれます。マイカーに頼らなくても生活できる市民サービス(公共交通など)が不可欠です。住み良く便利で豊かな都市であってほしいです。秋田空港ができたときには空港～JR秋田駅～セリオンなどを結ぶモノレールなどができたらいいなと思っていましたが、市営バスがなくなるなど公共交通が後退してしまいました。不便で楽しくない都市になりました。【男性、60～69歳、雄和】</p>
56	<p>新たな計画を押し進めるより、まずこれまでの無計画さ・計画のずさんさを悔いるべき。そもそもなぜ持続不可能なのか。一般企業であれば先に身を削って事業を立て直しを図るものである。その努力はしたのか。示せなければ賛同できない。【男性、30～39歳、南部】</p>
57	<p>秋田市の最北の限界集落に住んでいる者にとって何もかもが不自由で、車に乗れなくなったら買い物にも医者にも行けなくなるだろうと思う。便利な所に住み替えるにしても年金だけの生活では想像もできない。【女性、60～69歳、北部】</p>
58	<p>取組みも策定もいま初めて知った。私はテレビも新聞も読まないで、A4、1枚の説明ではよく理解できませんでした。ただ秋田が好きなので、良いまちになってほしい。子どもを産ませて育てるのも大事だけど、10代・20代の若者が秋田にいたい、来たい、住みたいと思えるようにしてほしい。大学・専門学校・高校でもっと良いものが増えるといい。またバス・電車が少ないし、早すぎる。【女性、30～39歳、南部】</p>

番号	意見要旨
59	大型ショッピングセンターが駅前に直結していると良いと思う。休日に遊びに行く場所がありません（ラウンドワンと御所野イオンのみ）。バス賃が高く、車を持っていない大学の友達は不便を感じている。バスの運行時間の最終が早く、お酒を飲みに行くと帰れない。【女性、20～29歳、中央】
60	バス停が近くにあればバスを利用したいと思いますが、荷物が多いときは尚更自家用車に頼ってしまいます。【女性、70歳以上、中央】
61	コンパクトシティにするには後継者が少ないため、子どもの人数も少ないため、その条件に満たない。隣町と合併するにも交通面が一番難しい。【女性、60～69歳、西部】
62	計画には高齢者にとっては望まない事項もあるが、全国一高齢化が進んでいる所に住む者として、これまでどおり医療サービス等を受けるにはやむを得ないと思いました。【女性、60～69歳、西部】
63	住んでいる地域はバスの利便性も良く、特にマイカーがなく運転もできない身としては住みやすい。コンパクトシティ化は人口減が課題の秋田にも良い方策と賛成です。高齢になっても自分のことができたり、買い物・通院ができるのが寝たきりや認知症予防にもなるのは自明の理です。誰も住む土地・家に居続けたいと思うものですが、これからは我々住民も人口減から生ずる問題への意識を変えざるを得ないと思います。秋田市がモデルシティになるようだと素晴らしいと思います。【女性、50～59歳、中央】
64	人口減少が進んでいる現在、市街地の集約化を図っていかなければならないのは当然と思いますが、これと同時に事業先の集約化を図っていかなければならないと考えています。とすれば、現在の市街地を基本形にして進めていくのか、新たに形成していくのかわかりませんが、いずれにしても人口減少を見据えての計画だと思えますが、まずは事業先誘致（雇用確保）を一番に進めていただきたいと思えます。【男性、60～69歳、北部】
65	駅前に何でも集中してしまえば、駅前の駐車場無料化（公営駐車場）がなければ駅前に行けないので、ぜひ無料にしてほしい。人がいっぱい集まると思います。なかいちも駐車場がどこにあるかわかりにくいし狭い。無料化しもっと広く入りやすい駐車場にすれば、もっと駅前に人が集まると思います。御所野のイオンでは毎週火・日曜日に無料バスを出しており、駐車場も停めやすく無料。だから人が集まるのでは…。【男性、50～59歳、北部】
66	高年齢でないため現在の生活に不便を感じない。特に提案等なし。【男性、50～59歳、北部】

番号	意見要旨
67	<p>生まれも育ちも秋田ですが、いろいろ心配になってきました。人口の減少や超高齢化社会という難しい問題ですが、このようにいろいろな世代の方々の意見を取り入れるというのはとても良い事と思います。仕事柄高齢者と関わることが多く、また、自身も40代になり他人事ではなくなってきました。最近気になるのは高齢者の自動車事故ですが、みなさんの話を聞くとやはり多くは買い物や通院にどうしても車が必要とのこと。バスやタクシーが充実してくれたらと思うのですが、時々使ってみるとバスは確かに便利で、運動にもなります。足の不自由な方も気軽に乗れるようになってほしいです。その他、家の近くにスーパーや病院があることが一番の理想とみなさんおっしゃいます。高齢者の生活の充実を図ることで自殺なども減ると良いと思います。流行りのグラウンドゴルフ場も市内にあると良いのではないかと（送迎バスも）。他の地域の方も秋田市に住んでみたい！と思えるような、若い人も高齢者も元気になれるようなそんな魅力あるところになってほしいと願います。 【男性、40～49歳、西部】</p>
68	<p>まちなかに元気がない。元気あるまちにしたい。【男性、70歳以上、中央】</p>
69	<p>いまとなれば無定見ともいえる都市開発のため、伸びきって希薄になった秋田の街に、今後要するインフラの維持経費がどのくらい膨大になるのか。この際、市民にはっきり示す必要があると考えます。文化施設もサッカー場も新屋や土崎に建設中のハコモも泉地区のJR新駅も、それは市民にとっても首長にとっても夢のある話でしょう。しかし、生活に直結している上水道、下水道、ゴミ収集、生活道路の維持管理、更には毎年の除雪などをどうしていくのか。その費用は誰が負担するのか。買い物も医療も介護も子育ても大事です。でもそれ以前に、生活するのに最低限必要な環境を維持することが（いまのままで維持できるのかも含めて）、どのくらい重要なのかをどこかないがしろにしていますか。いままで市民に示してきているとは思えないのですが。【男性、50～59歳、北部】</p>
70	<p>制度の概要説明は理解できるが、もう少し平易な表現にしたほうが読みやすいと思う。文字の大きさも老眼等のある方への配慮に欠けると思う。市街地を集約すれば生活・行政サービス等が効率的になるのはわかるが、集約した分、元いたエリアで土地が荒れたりしないのか不安に思う。地下の変動（集約されたエリアが上昇し、人のいなくなった不便なエリアの価値が下がる）等の個人資産への影響は補償されるのか不安に思う。集約することで少ない労力でいまと変わらない生活ができるのであれば、それも良いと思う。【女性、30～39歳、北部】</p>
71	<p>コンパクトシティを初めて知った。もっと一般市民に市が進めていることをアピールしてもらいたい。内容を誰も知らない。【男性、50～59歳、雄和】</p>
72	<p>取組みを実行したときには計画時と状況変化があると思うので、無駄にならないように計画・実行してほしいです。【女性、30～39歳、中央】</p>
73	<p>住みやすいと思います。でももっと情報をまとめた本などがあると便利です。福祉に関して足を運べない人や説明が多すぎて読めないし、わかりづらい等をスムーズにできるように。もっとサービスをわかりやすくしてほしい。「見守り隊」のような一人暮らしの方など、ただ集約化を図っても知らんぷりなど、人と人との関わりが薄いと一緒ことではないか、と思います。【女性、40～49歳、中央】</p>

番号	意見要旨
74	<p>現在住んでいる地域に特に不満はないが、将来、車を運転できなくなったら買い物難民になってしまうのではないかと不安である。横金線のどこかにスーパー等が建つという話を聞いていたが、いつの間にか消えてしまったようだ。飯島地区は昔から住んでいる人が多いが、開発(?)されていくのは国道側で、横金線は便利だがバスも通っていない。老人にとっては不便であると思われる。義母は80近くになっても自転車に乗ることができ、買い物にも出かけているが、年をとればとるほど住居を変えるという選択はなくなっていくことを考えると、コンパクトシティという考えが果たして浸透していくものかどうかと頭を悩ませる。県のなかでも秋田市はまだ人口減の問題に直面していないほうなのかもしれないが、高卒後、大学や就職などで県外へ行ってしまうと戻ってくるのがむずかしい状況であることも考えていただけたらありがたいと思っている。秋田が好きの子たちが秋田に住み続けられるまちづくりに期待している。【女性、50～59歳、北部】</p>
75	<p>子どもに知的障害があり、通所や入所(短期入所も含む)できるところがあまりにも少なく、いまは特別支援学校に通っているのが不便を感じませんが、将来は不便を感じ、秋田を離れる可能性もあります。そういう考えの母親たちがたくさんいるのが現実なので、少々内容は違うかもしれませんが、障がい福祉も充実していただきたいと強く願います。【女性、30～39歳、北部】</p>
76	<p>私は四ツ小屋からバスに乗っていますが、おばあちゃんに対して対応がきつすぎてかわいそうです。1、2人じゃなく4人ぐらいきつい運転手がいて、みんな影で言っています。教えるのではなく怒って、何回も何回も怒り、運転手は勘違いしているのではないかと、ただで乗っていると思っているのかと思うぐらいです。みんな市役所や会社に電話するとか言っていますし、私も市役所に電話しようと思っていたところです。【女性、60～69歳、雄和】</p>
77	<p>人口減少による影響はまったなしの都市計画を必要とする。ふくらむ一方のインフラ整備、メンテナンスを考えれば、コンパクトシティづくりは必要不可欠になると思う。点在する空き家に対しては国もいろいろと考えてくれてはいるが、地方が積極的に推進していく問題であり、そこにかかるインフラの維持費用を考えればコンパクトシティをより住みやすい方向に持っていくべきと思う。「住んでみたい」と思わせる都市計画も必要となろう。【男性、60～69歳、中央】</p>
78	<p>「コンパクトシティ」は農村地域に対してどのように考えているのか。秋田市にもまだまだ農村地域が存在している。将来「コンパクトシティ」に含まれない地域はどうなるのか。「立地適正化計画」はあくまでも秋田市中心部とそのすぐそばに住んでいる人のためにしかならないと思う。【男性、40～49歳、東部】</p>
79	<p>高齢化し車の運転を止めた場合、足の確保は極めて不安だ。特に通院・買い物は不安だろう。「町内会」の人と人との結びつきを強化するための組織づくり、グループ化にする梃入れ対策が必要だと思う。【男性、70歳以上、河辺】</p>

番号	意見要旨
80	<p>空き家や使用されていない建物の整理（強制力を持った対応）＜対象＞2年以上放置の空き家、3年以上放置のその他建物 ＜内容＞市の持ち物として貸出 or 販売。借り手、買い手が見つからない場合は解体 ＜理由＞ただ放置しているだけの建物は何も恩恵を受ける事のないものであり、住民生活の妨げ以外の何物でもない。空き家以外のその他建物の多くは好立地にそのまま無残な姿で残っている気がする。新たなハコモノを作るより、この整理でスマートなまちづくりに期待する。</p> <p>【男性、50～59歳、中央】</p>
81	<p>もっと分かりやすい説明が良い。固い文章で頭になかなか入って来ない。</p> <p>【女性、30～39歳、東部】</p>
82	<p>「コンパクトシティ」は素晴らしい計画だと思います。できるだけ早く車の免許を返納したいと考えています。買い物・病院など日常生活に必要なものが身近にあれば、車がなくてもやっていけると 생각합니다。公共の交通手段も含めて、ぜひ実現していただきたいと思います。期待しています。【女性、60～69歳、南部】</p>
83	<p>私は北部地域に居住しています。土崎地区は古くからの商店街があり、行政・医療など生活するには便利です。ですが古くからの商店の高齢化が進んでいるように思います。有楽町ではリノベーションで活性化が図られたり、後継者を家族以外の方が受け止めるなど、土崎地区でもその取組みが進んでくれたらまた違った活性化につながるし、商店街を中心としたコンパクトなまちづくりにもなると 생각합니다。【女性、40～49歳、北部】</p>
84	<p>前にテレビで見たのですが、他県の高齢者の多い町に若者たちが多く住むようになり、子どもも多く生まれ人口が増えているという町の番組をやっていました。そういうところはたくさんあると思います。そこには必ず理由があるはずです。なぜ活気のある町になったのかを、実際に足を運んで、そこに住んでいる人に聞いて真似したらどうでしょうか。真似をすることは決して悪いことではありません。良い事・できる事をヒントとしてまちづくりに役立てるのも良い事だと思います。</p> <p>【女性、60～69歳、南部】</p>
85	<p>公共交通がとても不便。子どもが学校へ通学するために利用したかったが、時間・運賃・本数が合わなく毎日送り迎え。送り迎えができないときもあり、秋田駅の近くにアパートを借りて5～6回／月はアパートに泊まって通学させていた。これだけ通学が不便で、小学校・中学校も統廃合で地域からなくなり、ここに住み続けたいという気持ちがわからない。「コンパクトシティ」を考えると、山間地の地域の足（公共交通）も含めて考えてほしい。【男性、50～59歳、雄和】</p>
86	<p>茨島地区は商業施設が発展し、住みやすい地区になってきました。具体的には7丁目の住民にとってバスの乗り継ぎができません。中島は本数が少なく、イオンタウンまで行くには遠いです。茨島地区は高齢者が増えています。バスの利便を向上してほしいです。高齢者の相談（包括）が遠いです。茨島地区の高齢者の多い地区を逆手に、障がい者の住みたい町として、一体化したまちづくりを進めてほしいです。【男性、30～39歳、中央】</p>
87	<p>先日祖母が他界し、近場に市営の霊園があればと感じました。少子高齢化、霊園を増やしてほしいです（新屋地区に）。【男性、20～29歳、西部】</p>
88	<p>問15に関して、税金を少なくすべきと考えます。【男性、60～69歳、西部】</p>

番号	意見要旨
89	すでに高齢化になり住居の適正化と言っても、団地へ住んでからは難しいと思う。なぜ早く都市計画を、遅れている。民間会社の団地計画を進めていかないと、このような問題が発生してくると思う。【男性、70歳以上、東部】
90	私自身、加齢により自動車の運転ができなくなったり、老後の病院通いや買い物などに対し不安の気持ちがあります。東京都内みたいに遠くても近くでも同じ料金でバスを利用（例えば秋田市内）できたり、高齢者のタクシーの初乗り料金を490円にしたりできれば良いと思うことがあります。遠くから病院や買物に秋田市内に来られる方には、時間を決めて特別なバス利用と料金で来れるような取組みも考えてみてください。【女性、60～69歳、東部】
91	仙台市にヒントがあるのではと思います。仙台市に行くたび交通の便利さ、人の多さに驚きます。泉区は27年前は山でした。いまではちょっとした都市です。杜の都仙台をモデルに、仙台市からノウハウを伝授させてもらうことはできませんか。”秋田ならでは”は大事ですが、越えることも必要かと思います。秋田の発展のために期待しています。がんばってください。【男性、40～49歳、北部】
92	路線バスの公路数を多くしてほしい。中央地区に商店を、周辺に工場・住居というようにし、路線バスの始発、終点の時間を早く、また遅くする。【男性、70歳以上、北部】
93	高齢になると車の運転よりはバスなど公共の乗り物などを利用したいが、メイン通りにはバスも通りバス停も近くにあたりするが、少し中のほうに入るとバスが通ってなかったり、そのうえ駅までも遠かったりする。大きな施設などはメイン通りや駅近くだったので将来的には不便さを感じてしまう。住む環境としては静かで子どもが住みやすい地域が良いのですが、そうすると人口の少ない地域は住むにはいいが、不便さが出るのではと考えてしまいます。【女性、30～39歳、西部】
94	車の運転ができるいまは通院・買い物等、不自由していないが、10年後・20年後はどうしても足の確保が課題となる。「高齢者コインバス」を利用したいと思っているが、利便性がいまいまいけない感じである。本数が少ない、秋田駅方面には乗り継ぎが必要、運行時間が合わない等である。運行費用等、財政的な面もあると思うが、バスの小型化、乗合制を増やす等、改善策を進めるべきと思う。【男性、60～69歳、雄和】
95	福祉・介護、医療病院、学校、文化施設、商業施設、交通、それぞれトータルバランスを考え計画してもらいたいです。【男性、50～59歳、南部】
96	私が住んでいる地域は飯島南地区ですが、ほかの地域と比べ何もありません。学区内に交番・銀行（JAのみ）・郵便局・コミセン・スーパー、とても不便に感じます。子どもがいてスーパーでのお使いも、お金の使い方も、学区内にお店がないため、ほかの学区の子が体験していることもできていない状態です。交番もなく、將軍野交番（5km以上も離れている）の方はこちらまでパトロールしているのでしょうか、と疑問に思う日々です。子どもがいる世帯はみんな別の学区に家を建てているのが現状です。10年この地域に住んでいますが、新しく家を購入する際はこの地域を離れることを検討しています。こういう声を参考にしまちづくりを進めていってください。【女性、30～39歳、北部】

番号	意見要旨
97	公共交通機能の充実と市街地の美化に努めていると思います。住民の高齢化が進むなか、若者が県外に出て行かなくても良い環境づくりを願っています。大変でしょうが、住み良いまちづくりにがんばってください。【男性、50～59歳、北部】
98	行政サービスの面からコンパクトシティの取組みは理解できる。一方、高齢化している農業（米づくり）従事者は、農地と住居が近いことで生活が成り立っている。特に国民年金で生活している農業従事者が新たに市街化区域の住居に入居するには、資金面で不安を感じると思う。また空き家の処分、または整理ができていない状況が多く見られます。【男性、60～69歳、雄和】
99	立地適正化計画に基づいた新しいまちづくりの地区に関して、災害等いろいろなことを考えられておくことには賛同いたしますが、いま現在ある町内に関して道路交通、犯罪（不審者等）の配慮にももっと力を入れたまちづくりを考えていただきたいと思っております。特に道路交通では帰宅ラッシュ時には車のナビの普及により抜け道を探して狭い町内をぬって入ってくるため、その地区にいる児童や住民との事故等があったりしているのが現状で、その時が非常に心配している点です。多極ネットワークを主においておりますが、上記のことも調査に盛り込んで今後の取組みの参考にしていただけたらと思います。【男性、30～39歳、東部】
100	高齢化が進展するなかで、交通弱者が増加している。足の確保を優先する必要がある。地域でも空き家が増加している。防災・治安への不安が増している。住民の安心・安全が守られるシステムの構築が必要と思う。市街地へ向かう車の駐車場と市街地中心部をつなぐ公共交通機関があれば、中心部の混雑を防ぐことにならないだろうか（パーク・アンド・バスシステム）。【男性、60～69歳、東部】
101	立地適正化計画のイメージ図を見ても、一般人にはわからずイメージがわきません。もう少し具体的に一例をあげて説明がほしいです。【女性、50～59歳、西部】
102	①いまは若いのでどこにでも車で移動できるが、将来車の運転ができなくなったらとても不便な場所です。かといって家を離れたいわけではないので、循環バス（近くのスーパーまで、病院まで、市役所まで…）が充実すると良いと思う。高齢者の車の運転にまきこまれる恐れが、今後一層増えてくると思われます。そのためにも家用車を手放しても不便のない交通網を整備してほしい。 ②自分で自分の生活がままならない老人を一箇所に集めたニュータウンを作してほしい。そうすれば老人ホームと家を往復する車もいなくなるし、老人たちも若い人たちに気兼ねすることなく暮らせると思う。【男性、40～49歳、東部】
103	問1の選択肢が適切ではない。【不明、20～29歳、西部】
104	若い人の少ない秋田では世代交代による居住区の移動、誘導というのはそんなに多くはないだろうと予想します。しかし、年代が上の方々にとって、慣れ親しんだ家や地域を離れ新しい生活を始めることはとても大変です。また誘導が進むにつれ、元いた地域が寂れていくとなると、それはとても淋しいと思います。「コンパクトシティ」はとても合理的だと思いますし、取組みや「立地適正化計画」には賛成です。長期的な展望のもと誘導を図るとのことでしたので、誘導後の土地の活用計画と、なるべく多くの人々が納得して移動できるような施策を期待しています。 【女性、20～29歳、東部】

番号	意見要旨
105	<p>東部地域に住んでみて感じることを申し述べます。</p> <p>①特に買い物では近くに大商業施設（ジェイマルエイ、タカヤナギ）があるにも関わらず、JR 奥羽線の下の狭い通路を通る関係で大変危険であり、早急な通路の拡幅が望ましいと考えます（ガード6番）。</p> <p>②行政の手続きには秋田駅前まで行く必要があり、大変不便です。</p> <p>③高齢者が運動したり交流したりする施設が身近にないことにも、不便さを感じます。</p> <p>④児童館や学童クラブもなく、子どもたちの遊び場がないのを可哀想に思っています。【女性、70歳以上、東部】</p>
106	<p>私は現在飯島穀丁に住んでいます。この周辺に公園がまったくなく、散歩中ひと休みできる場所がありません。あったら良いところ数年思いが募ります。災害時の避難場所や交流（子どもたちや近所の方々）の場所としても必要と思っております。【男性、70歳以上、北部】</p>
107	<p>区域外に居住している人たちは？転居することは難しいのでは。 【女性、60～69歳、雄和】</p>
108	<p>「高齢化と異常気象を考慮したコンパクトシティ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が容易に移動可能となる公共交通システム ・いつでも、どこからでも乗降可能 ・渋滞の緩和、日常生活で自家用車による市内の移動が不要 ・災害時の避難経路の確保と渋滞緩和 ・排水（排雪）溝の整備 ・豪雨に対応 ・除雪費の軽減、高齢者でも自宅前の除排雪が可能 <p>各区域間の移動手段が重要ではないのか。【男性、60～69歳、北部】</p>
109	<p>高齢者になっても近い所に運動のできる場所や建物を作ってほしいです。気楽に出かけられる場所、コミュニティを楽しめるところがあつたらいいかな。60歳なので徒歩で出かけられるところが良いと思います。【女性、60～69歳、南部】</p>
110	<p>今後高齢化が進み、暮らしやすいまちづくりは大変良い取組みだと思います。しかし秋田を見たときに人口は減少し超高齢化していきますので、若い人が秋田に残る、またいったん都会に出ても秋田に帰ってきやすいような対策が必要ではないだろうか。働く場所がない。民間企業が立地できる支援体制等、一朝一夕でできるものではないが、制度・対策が必要と考えます。そのなかで安定したまちづくりが必要となってくるのではないかと。勉強不足で申し訳ありませんが、市でこのような取組みをしていることをもっとPRしたほうが良いと考えます。 【男性、60～69歳、東部】</p>
111	<p>①公共交通網の範囲を決める。地域の中心から15km以内にする。</p> <p>②医療、福祉施設、行政の区域を設定して利用する人の年齢層を把握し、これから建替えるようであれば助成する。【男性、60～69歳、河辺】</p>

番号	意見要旨
116	美術館ばかり増えてつまらない。イオンやコストコ、イケアなどを秋田に誘致して出歩ける街をつくってほしい。結局は車を使わなきゃいけないので、駐車場の無料化、充実を図ってほしい。駅前にばかりスタバ・タリーズ・ドトールカフェがあるが、大町周辺にもカフェを誘致してほしい（ダイエー跡地）。いろいろなカフェができてきているが、全国チェーン店のものがもっと市内にあるとゆっくりできて良いと思う。なぜ「なかいち」のなかにないのか、残念。【女性、30～39歳、中央】
117	人口が減っていくことを前向きに捉えてコンパクトシティの取組みを進めてほしい。人口が少なくてもやっているとというモデルが示せられれば、将来に希望が持てそうだと思う。【女性、20～29歳、中央】
118	コンパクトシティの取組みは賛成ですが、これからはいま以上にお年寄りが増えます。私の祖母は若いですが車いす生活をしています。秋田は車いすで出かけるのが困難です。ホテル、食事場所、乗り物、すべてが元気な人たちが利用するにはいいのですが、一部しか車いす対応になっておらず、障がい者には優しくない街です。秋田全体を障がい者などに優しい街にしていかなければ生活していきません。車いすだけではなく、ベビーカーなども利用しやすいように、すべての人対応に改善していけたらいいと思います。税金を大事に使ってほしいです。【女性、20～29歳、東部】
119	泉・外旭川新駅の設置と二次交通の整備及び社会福祉施設の充実を要望します。【男性、40～49歳、東部】
120	暮らしやすい・生活しやすい環境づくりは良いと思いますが、行政の一方的な押し付けではいけないと思います。また雪国であるという一面もあるので、独自の配慮が必要となります。【女性、50～59歳、中央】
121	道路整備よりも公共交通機関の充実を図るべき。高齢者がいつまでも自家用車を運転するのは、公共交通機関が利用しにくい状況だから。広い道路はスピードの出し過ぎにつながっていく。物流重視ではなく、暮らしやすい環境整備をするべき。【女性、50～59歳、河辺】
122	上記取組みに異論は特別ありませんが、お金を使う優先事項はコンパクトにすることではなく、子どもを増やす（人口を増やす）ことなのではないかと個人的に思います。【男性、30～39歳、北部】
123	秋田市中心部への公共交通機関を充実させてほしい。（現在はマイカーがなければどうにもならない。）【男性、60～69歳、雄和】
124	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、中心地に住んでいる方はほぼ不便はないと思いますが、離れた地域の方はとても不便だと（車がないと…。バスが通っていない…。施設が遠い）思います。 ・土地、建物に対しての税金の仕組みにも不信感を抱いている。低収入なのに、納めるものは多いし、高いしでは住み続けたくてもできなかつたり、住み替えられないのではないかと。 ・バブル時代に働いてきた人たちは、この先数十年後に老後で不安だと思っている今の若者の気持ちを本当にわかっているのだろうかと思う。 ・都市の活性化といっても、大きな企業が入ってこない限り、人口も増えない、収入も増えない現状があると思う。その中でコンパクトシティも収入が安定し、財産がある人しか興味がわからないのではないかと考えたりします。市中心に住む職員で考える街づくりはどうかと思う。【女性、50～59歳、河辺】

番号	意見要旨
125	今後、高齢化を見据えた市民生活の利便性の確保とありますが、近い将来高齢となり、車を使えない時代に突入します。その場合の公共の交通手段が問題となってきます。タクシーはとて高く使えません。民間を利用したの安くて便利なシャトルバスの起用をお願いしたいです。【女性、60～69歳、中央】
126	今回のアンケートを元に考えられる「まちづくり」は、10～20年といった年単位での計画になるのだと思います。そうだとしたら、今回のアンケートの対象は下限（20歳以上）だけでなく上限も設定し、将来その「まちづくり」を実際に担うと考えられる年齢層に絞った方が良いのではと思いました。現状の構成比を元に算出するのであれば、それはどうしても高齢の方の意見が大きくなると思いますし、それは若年層の意見とは一致しないものもあると思うからです。【女性、30～39歳、西部】
127	<ul style="list-style-type: none"> ・公園が近くにないため、車で公園に行かなければ子供の遊び場がない。歩いて行ける距離に公園があると近所の子とも遊べる。 ・子供が学校へ登校する時、国道など大きい道路を渡らなければ行けないのが心配。地下道も暗いので心配。 ・今住んでいる場所は、近くにスーパー、病院、飲食店、学校などありとても便利だが、アパートのためいずれは一戸建ての家に引っ越したいと思っている。近くに土地や物件があればいいなと考えている。 ・駅が少なく、近くにもっと駅があれば利用したい。【女性、30～39歳、南部】
128	太平地区は道路の接続にもスムーズな場所です。公共施設や農業施設など誘致して頂ければ、若い人たちも定着するのではと思います。働く場所がないので、若い人たちが出てしまいます。自然を生かした施設など人が集まる、働く場所がある町にしてほしい。若者だけでなく、元気な年寄りもたくさんいます。働くことによって元気で活気のある町になれるよう、お願いします。【男性、50～59歳、東部】
129	「人々が移動してくることで残った住宅地などはどのようにするのか。」「山周辺などに住んでいる方達は田畑を持っていらっしゃる方が多いと思うが、コンパクトシティで人を集めることによって、田畑の放棄につながってしまうことはないのだろうか。」（その場合、誰が責任を持っていくのか。）といったことが疑問点としてあげられます。立地適正化計画の実施により、人口密度がある程度一定化されれば、利便性や災害時などにおける安全性も高まると期待しています。【女性、20～29歳、雄和】
130	空港周辺の学園都市化【女性、30～39歳、雄和】
131	コンパクトシティの取り組みとはどういうことをしているのか、するのか、ネットで調べてもよくわからず、もっと市民に浸透させた方がいいと思います。立地適正化計画の策定についても同じです。【女性、50～59歳、西部】
132	雄和町に住んでおりますが、バスと電車の連携をきちんとしてほしい。【男性、70歳以上、雄和】

番号	意見要旨
133	<p>①冬期間の除雪について。居住する上で除雪について、市民がどうしてほしいかもっと意見を聞いて頂きたい。私たちの子供は、県外で生活しているが、今のままでは決して秋田市には戻らない。</p> <p>②市の各施設で駐車場の不便を感じる場所が多い。他の駐車場では利用料金が高額である。一考して頂きたい。【女性、70歳以上、東部】</p>
134	<p>普段は学生寮に住んでいるが、実家は秋田市の中心地にあり、利便性が高く住みやすいと感じている。秋田駅周辺は様々な施設があるが、郊外だと車がないと生活ができない。また、郊外から車で秋田駅に来たとき、無料の駐車場がなくていつも困っている。公共交通機関の充実とともに区域外の人たちも秋田駅を利用しやすい環境を作ってほしい。【女性、20～29歳、雄和】</p>
135	<p>コンパクトシティの取り組みについて。核となるコンパクトシティ間の公共交通の充実、駐車場の確保（無料）などの問題があり、発展していくと思えない。（御所野地区の発展を見れば、秋田駅周辺の盛り上がりがないのがわかると思います）よって、コンパクトシティの計画の将来には、明るい話題はないと思われる。早く外旭川イオングループの進出を推進して下さい。他都市での大型ショッピングモールの受け入れによる成功例もあるし、雇用の問題もあり、少子化問題など（県外から移住が増加する）解決まで行かなくても今の市の計画より発展性があると思います。【女性、70歳以上、北部】</p>
136	<p>・取り組みに反対の気持ちはありませんが、居住誘導区域に住み替えができるのは心や経済的に余裕のある人に限られる気がします。秋田県民の性質として、特に高齢者は生まれ育ったところに住み続けたいという気持ちが強いと思います。計画を進めるのは、それはそれでいいのですが、都市部に住んでいない市民の生活を充実したもの、都市部以外の今現在の状況をもっと把握し、医療やスーパーなど人の流れを集めていけるような基礎作りも望みます。市民の「本当の声」「正直な気持ち」汲み取って頂き、住みよいまちづくりになりますよう期待します。</p> <p>・バスの本数が以前より減りました。</p> <p>・キャッスルホテル付近のバス停がわかりづらいです。どのバス停で待っていたらいいのかわかりません。【女性、40～49歳、河辺】</p>
137	<p>・以前から思っていたことですが、秋田駅近くのホテルハワイ？の建物が見た目に悪く、早くなくなってほしいです。他県から来た友達にこれなに？と聞かれて大分前につぶれたホテルと言った時、なんだか悲しい気分になりました。</p> <p>・秋田で稼いだお金を使うところがありません。お酒関係は充実してるように思いますが（居酒屋など）そこに行くためにおしゃれをして出かけたのに洋服を買ったりする所がほしいです。わざわざ宮城や盛岡に出かけて買っている人も多いです。田舎で稼いだ金を都市に吸い取られているこの植民地状態を変えてほしい。特に思うのは男性物の服、私の主人は通販を利用していますが、本当はフィッティングして買いたいようです。秋田で稼いだ金を秋田で使う仕組みが欲しいです。【女性、20～29歳、中央】</p>

番号	意見要旨
138	<p>「泉踏み切り」周辺の通行が危険</p> <p>①泉踏み切りから、添川方向に直進の場合、道路幅員が狭く左カーブになっているため特に朝、夕のラッシュ時は、往復の車両のほか、高校生の自転車、通学児童、一般歩行者も多く通行が極めて危険である。歩行者は、危険を避けるため他人の屋敷内の通行を余儀なくされている。</p> <p>②泉踏み切り遮断機の傍が、側溝で蓋もなく、1メートル位のくぼみとなっており、電車通過の際、自転車や歩行者は待避上危険である。</p> <p>③歩行者、自転車用の白線のラインが道路両側にあれば安全と思う。</p> <p>【男性、70歳以上、中央】</p>
139	<p>コンパクトシティの取り組みは悪いとは思わないけど、はじっこに住んでるので何とも言えず…。将来的には街中に住んだ方が楽なのかもしれないけど、資金源など考えると簡単ではないと思います。病院もなく、薬局もなくなってしまい、とても困っているお年寄りを見ている。引っ越してストレスを感じている話も聞いています。もう少し、今のお年寄りにも耳を傾けて欲しいと思っています。少し話ずれてすみません。住み慣れた街を大事にしたいのはみんな同じですよ。</p> <p>【女性、30～39歳、河辺】</p>
140	<p>保育所の増設【女性、20～29歳、河辺】</p>
141	<p>〔都市機能誘導区域と誘導施設〕について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新屋浜田、下浜地域には大きな総合病院、救急病院がないので、ぜひ誘致してもらいたい。 ・路線バス車両を小型にして、狭い道路を走行できるようにしてもらいたい。 <p>自家用車を持たない高齢者や運転免許証を返納した高齢者対策として。</p> <p>【男性、50～59歳、西部】</p>
142	<p>秋田駅の現状が辛い…。昔のにぎわいがなつかしいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JRの本数を増やす。 ・土崎、追分、牛島、新屋・・・等のJR駅前に無料の駐車場を検討してはいかが？そこから秋田駅前へ行ってみたい。(未だにエリアなかいちへ行ってないので…)。(質問に合わない答えですみません) <p>子育て支援は給付金ではなく、保育所の増設を望みます。朝から晩まで大事な子供を希望の保育園へ頼めず、空いている所へ強制的に振り分けられるのに、長年疑問を感じております。【女性、50～59歳、西部】</p>
143	<p>地域に愛着があったり、経済的に移転できない人が周りに多く、現在の環境の中で生活するにはその地域毎の集団生活、現在中集団生活、活用していない公共施設の活用等で充分対応できる。【男性、60～69歳、河辺】</p>
144	<p>コンパクトシティや立地適正化計画は進めるべきと考えます。</p> <p>【男性、60～69歳、西部】</p>

番号	意見要旨
145	<p>①コンパクトシティの取り組みは時代の流れとして、少子高齢化の秋田は最も早く実施をしないといけないと思います。ただ、行政はそれをいつまでにというスケジュールが見えません。長期という計画ではなく、3年後、5年後はここまでやるという事を明確にした方がいいと思います。</p> <p>②居住誘導地区への場合、費用、空き屋対策はどうなるのでしょうか。</p> <p>③ホームページの第6次秋田市総合都市計画を見ましたが、文書、文字ではわかりにくいです。簡単な物でもいいので、イメージ画像や動画があった方がいいです。その情報の発信の頻度も多く、テレビの広報番組でも放送したらどうでしょうか。</p> <p>④日本一の少子高齢化の秋田県。この取り組みの成功は、全国から注目されています。成功することで秋田に住みたいと移住されることもあるかもしれません。この調査票の大きさと封筒のサイズ、合いませんよ！！【男性、50～59歳、中央】</p>
146	<p>立地適正化計画案が完成した時には現状に合わず、不必要なものやあるいは見通しが甘く、さらに改善が必要になってくるものが当然出てくると思う。そういった場合には計画案にこだわらず、臨機応変に対応して欲しい。また人口減少や計画の進行に伴い、郊外などでは限界集落などが出現するだろうが、無理矢理集落を維持しようとするのではなく、集落終い（まちじまい）し、この地区、地域を自然に帰すような整備（新たな里山造りのようなもの）をしても良いのではないかと。中心部でも空き屋などが多数ある場合、民間の開発との兼ね合いもあるとは思いますが、虫食い状態で開発するよりも道路の拡幅・整備など現在あるインフラをよりよいものにする方が新たな「ハコモノ」を作るよりも住民にとっては充実感を得られるのではないかと。素人の意見をくどくどと書き連ね失礼しました。職員の皆さんの活動により、よりよい街になることを期待しております。【男性、40～49歳、西部】</p>
147	<p>移動手段のない人のためにも機能が集約されたコンパクトシティは重要だと考えます。【女性、20～29歳、中央】</p>
148	<p>私は他県から移住しましたが、引っ越ししたくても保証会社に保証人をつけなければ引っ越しできないため、他県からで身内がない人には秋田県は大変住みにくい県です。折角、秋田にも素晴らしいところがたくさんあるのに、お薦めできないのはとても残念ですね！！すごくもったいない県だと思います！！</p> <p>【男性、30～39歳、中央】</p>
149	<p>「コンパクトシティ」「立地適正化計画」の意見ではありませんが、居住している「豊岩」地区は少子化高齢化が進み、歴史ある小中学校も在校生が少なく、活動（特に部活）に支障をきたす状況と思います。新屋の学校（日新、西）に通学している一部でも豊岩に変われば少しは賑やかになるのではと以前から思っています。近い将来、自分が運転不可能な年齢になれば、病院、買い物に豊岩地区からのバスは不便を感じています。今回のアンケートとは関係ない話ですみません。</p> <p>【女性、50～59歳、中央】</p>
150	<p>居住したいが、それに係るお金が必要であると思われる。結果として、年金収入だけでは入れない様な計画の策定はしてほしくない。本当に困っている人が入れるようなかたちであってほしい。【女性、70歳以上、中央】</p>

番号	意見要旨
151	<p>冠省 この度、「秋田市のまちづくりに関するアンケート」に参加させていただきありがとうございます。「お願い」では、6月23日迄の提出期限でしたが、海外旅行に出かけておりましたので、遅くなってしまいましたことをお詫びします。アンケートの設問を読み、設問自体にいろいろ感想をもちましたが、最後に「自由意見」欄がありますので、勝手な意見を具申させていただきます。私は、土崎港将軍野一区町内会関わるようになり12年以上となり、現在総務部長職を担っております。本職の活動とアンケート本旨との関わりのなかで感じたことを述べさせていただきます。本年3月22日付けの魁新報「声の十字路」の掲載記事があります（別添資料）。記事中の「73才の父」は、当町内のアパートに居住されていた方と、私は後日知りました。当町内会の福祉部は、75才以上の一人暮らしの方々を対象に、毎月一回、声かけ訪問を行っております。この「73才の父」は、75才に達していなかったこと、さらに「町内居住世帯家族名簿」の提出がありませんでした。結果として、町内会として把握していなかったこととなります。なぜ、こうなってしまったのか、いくつかの課題に気づきますが、三つだけ記してみます。①アパート居住者の方々から先の名簿の提出が無いこと、②隣近所との接点を求めない方が多く、また、町内会からの呼びかけにも反応してくれないこと、③町内会費を支払ってくれないこと、等があります。参考として、平成29年4月30日魁新報の読書欄に図書『孤独死大国』が紹介されていますから、本書もぜひご覧ください。上述のように、未来に向かって確実に進行している孤独死大国の現実が、我が町内会活動の日常にも影を落としています。このような認識を持っていたところに「秋田市のまちづくりに関するアンケート」を頂きました。今後の町内活動に必要なのは、ゆるやかな地縁・隣人付き合いの復活なのでなかろうか。孤立している一人ひとりの生活を、町内会活動と結び付け、さらに生活圏・文化圏に接点を持ちながら、社会的に生きていけるようにするのか。これを支えるのは、やはり町内会のゆるやかな日常的な活動しかみえてきません。当町内会の一番の夢は、日常活動を支える町内会館の必要性です。ご検討をいただきたいことは、市役所の出先としての町内会でもあるから、町内会館借り上げ費用の一部補助制度をご検討いただけないでしょうか。空き屋対策にもなるし、空き屋の有効利用ともできます。当町内には、南小学校の南児童センターがあります。この施設では会議はできますが、飲食ができません。上述した「ゆるやかな地縁・隣人付き合い」の基盤は、井戸端会議のお茶であり、小さなパブであり、子供と父母とお年寄りが一緒に過ごす場によってつくられるものです。このような場の提供こそが「ゆるやかな地縁・隣人付き合い」の接着剤となり、とても有効だからです。ずいぶん勝手な「自由意見」を書かせていただきました。求められた主旨に沿うかどうかわかりませんが、お許し下さい。</p> <p>【男性、70歳以上、北部】</p>

番号	意見要旨
152	<p>これからのまちづくりは人口の急激な減少と高齢化のなか、高齢者や子育て世代が安心できる健康で快適な生活環境を作っていただきたいと思います。今は私も車での移動が可能ですが、いずれは…。医療機関受診や商業施設等のアクセスのための公共交通をもう少し便利にしていきたい。また商店街の復活によって、徒歩で買い物に出かけたり、そこで会話ができたり。近所の公園内にレストランや喫茶店を作って頂き、情報交換の場所、寄り合いの場所にできたら、独居の方も寂しくないのではと思います。コンパクトシティは大賛成ですので、よろしくお願い申し上げます。【女性、50～59歳、中央】</p>
153	<p>JR 秋田貨物駅周辺の地価上昇は素人目でも予想できます。排他的な地価下落。排他的な空洞化が起こらない計画をよろしくお願い致します。(人口減少という現実とは直接リンクしない計画はこの世の中にはないのでしょうか。) 【男性、50～59歳、北部】</p>
154	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、自分の住んでいる居住環境については、不満はありません。強いて挙げるなら、バスの本数が極端に少ないこと、スーパーがやや遠いことぐらいです。 ・ 気になるのは、周辺に空き屋や空き地が増えていること。我が町内の高齢化を考えると、これからどんどん増加すると思われます。自分も妻も60代後半にさしかかり、子供達が県外に暮らしていることから、やがて自宅も廃墟になるのか心配です。死ぬ前に処分しなければと考えております。 ・ 高齢化が進むにつれ、「コンパクトシティ」は重要になると思われ、政策的に推し進めるべきと考えます。最も憂慮されるのは、冬場の除雪でしょう。道路延長がどんどん伸びて、除雪費用も馬鹿にならないでしょう。わずか数戸の集落までの長い距離の除雪が大変な負担になると思われます。 ・ これまで一戸建ての持ち家がもてはやされてきましたが、快適な集合住宅の使い回しを考えると時です(パリのように)。広い場所(田舎)でゆったり住みたいという人も多いでしょうが、これほど人口が減ると地域の共同体を維持することは困難です。 ・ 一人暮らし老人のケアをどうするか。空き屋を改装して集合住宅とし、管理人を置いて一人暮らしの人たちに共同生活してもらおうとか。細かな形での人口集約もしていくべきではないでしょうか。個人の意思尊重という壁もありますが。 ・ なぜか、江戸時代の長屋暮らしが理想のように思えてきます。 <p>施設、交通は中心部では充分整備されていますが、利用する側からすれば充分機能しているとは思われません。市民市場の衰退は何が原因なのでしょう。</p> <p>【男性、60～69歳、中央】</p>
155	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「コンパクトシティの取り組み」には賛成。 ・ 居住誘導区域内を容易に移動するための公共交通機関の充実を。 ・ 地域公共交通網形成計画との連携を密に。 ・ マイカー利用から公共交通機関利用への移行を(特に高齢者)・区域内同一運賃など低料金化を。【男性、60～69歳、中央】
156	<p>御所野以外にモールを作れば、秋田はもっと活性化したいと思います。駅前には駐車場無料にすれば、又、若者向けの店が増えれば活性化したいと思います。働くに当たり、給料が多い又はもっと求人が増えれば住みやすく、県外で暮らしたい、将来、県外就職したいと思う人が減ると思います。【女性、20～29歳、東部】</p>

番号	意見要旨
157	<p>(公共交通に関して) 地方はどこもそうだと思いますが、公共交通を利用する人がいない (特にバス) →ダイヤが減る→不便なのでさらに利用しないという悪い循環になっていると思います。通学時間帯以外だとほぼ高齢者しか乗っておらず、居心地が悪い気さえます。観光客向けに特化しているのかもしれませんが、循環バスのエリアが狭すぎると思う。</p> <p>(その他) 自転車であちこち出かけたが、小規模のお店などは駐車場はあっても駐輪場はまずないので止めづらい。狭いスペースに駐車場を設けていると車に邪魔にされそうで行きづらい。自転車で出かけやすい街になったらいいのにと考えています。(調査と関係なかったらすみません) 【女性、30～39歳、中央】</p>
158	<p>雪に対する対策を考えてもらいたい。雪の処理のため、高齢になるとマンションに移る方が多い。それにより、空き屋も増えているような気がする。</p> <p>【女性、60～69歳、中央】</p>
159	<p>全国的に少子高齢化が進み人口減となっている中で、秋田の人口減少率が高い状態となっている。若者は秋田に遊ぶところがないと離れていくし、秋田に観光に来た人はのんびりしていて心の温かい人が多いという反面、実際は他人を受け入れないところもあると思う。日本海中部地震から大きな災害もなく、とても住みやすい土地だと思う。コンパクトシティの取り組みとのことですが、便利な街づくりのためには、市と県そして民間企業が協力してやらなければならないと思う。まずは、スポーツ施設やコンサートホールを充実してほしいと思う。子供の部活で全国、色々なところに行ったが、やはり交通の便が良ければ人は集まりやすいと思う。それにはやはり電車の利用で行ければ、大量輸送が可能だと思う。大曲の花火などあれだけの人員を輸送するには電車が有効だし、イベント開催などで離れた駐車場からのバスのピストン輸送など効率が悪いと思う。今となっては無理な話だが、秋田駅北東の営林署跡地に秋田スーパーアリーナを作り、秋田駅からそのまま歩いて行けたら素晴らしい集客になったと思う。また新屋駅東側の十條製紙跡地も総合スポーツ施設があれば、交通の便でも大量輸送に対応できたと思う。今の市文化会館も駐車場が不便である。市立体育館は未だに何でパルテノン宮殿なのかわからないし、雨漏りがひどい。駐車台数も不足だと思う。街づくりでは車社会となって郊外の駐車場のあるショッピングセンターに人が集まるが、やはり車のない人が買い物や病院に行くのに便利でなければならないと思う。昔、秋田駅から広小路をマルサン・木内・協働社に向かってダイエーまで足を伸ばしたものだ。今、歩く人が少なくなった中で、角館の武家屋敷通りや全国各地の〇〇銀座通りなどを参考に秋田駅からなかいちまでの通りを充実させるとか、商店街を充実させ便利に生活できるような街づくりを目指してほしいと思う。最後に、昔から住んでいる持ち家だが、周りの家は建坪率が上がっているのに我が家は昔のままで税金が高くなる。これは暮らしにくいし、おかしいと思います。【男性、50～59歳、中央】</p>
160	<p>安全面では幼児、小学生と分けて遊ぶ施設も良いと思いますが、違う年齢層の子供(幼・小)を持つ親として、親たちが連れて行きやすい(気をつかうことなく)、違う年齢層の子供達と一緒に遊べる屋内施設があるといいと思いました。子供達も色々な年齢のお友達と遊ぶことで上下の関係を学べる。【女性、30～39歳、雄和】</p>

番号	意見要旨
161	どこを中核のポイントにするかを明確に！各拠点のアクセス、交通（バス、タクシー、ハイヤー、自転車）通信の構築。電車、民間タクシー、ベロタクシー、人力車→若者雇用。長期展望に欠かせない学官ミーティング（公開、浸透、参加）。役所、企業、学校のコンパクトシティへの取り組みへの休暇申請の手続。条例。現存するコンパクトシティモデルの取得。アップデート！【男性、50～59歳、南部】
162	高齢化が進み、空き屋が多くなってきています。とても住みやすい場所ですが、人が働く場所がなく、生活苦になります。働く場所がないため、若い人は都会に出て帰って来たくても働く場所がないのが現状です。安定して働く場所がなければ、人口も減るのは当然です。公務員は一度入ると辞めさせられることもなく、安心して生活できますが、一生懸命頑張っても雇用が安定している人は一握りです。民間企業も厳しいです。公務員はもっと仕事をしてほしいものです。長く勤務できる仕事場を作ることに頑張りたいです。半年や2年で辞めさせられる仕事はとても辛いです。【女性、50～59歳、中央】
163	人口減少が進む中、取り組みには賛同しますが、情報・広報・皆さんにわかりやすくして下さい。【女性、50～59歳、中央】
164	通勤は仁井田～中通なのでバス。日常はマイカーを使用しています。自宅から徒歩5～6分にバス停がありますが、上りは1日2本しかなく利用できません。通勤時は大人の足で15～20分のバス停を利用しています。高齢者のコインバスなども事業ではあるようですが、私の住む地域の方は利用者は少ないのではないかと思います。また、近くに新しく道路ができて約10年ですが、未だバス停がありません。（茨島～茨島大住アンパス～御野場の通り）この通りにバス停があれば高齢者や学生、また通勤でバスを利用する方が便利になるのではないかと思います。秋田市が子供から高齢の方まで安心・安全でより住みよい市になるよう願っています。【女性、30～39歳、南部】
165	平成26年に改正され、進められているとするならば、それが市民に伝わっていないという現状があります。もし、ポスターやチラシ等で知らせているのであれば、それだけでは理解につながっていません。折角素晴らしい制度なので、もっと広く知らせて行って欲しいと思います。公共交通の不便さは自家用車を増やす事にもなりますし、高齢の方にはますます不便を強いています。早めに公共交通の確保をお願いします。その整備から地固めをすることにより、コンパクト化が実現していくのではないかと思います。縦割りの行政ではなく、民間企業も含めてもっともっと横につながって行って欲しいと思います。【女性、40～49歳、南部】
166	人を縛って管理するようなやり方は容認できない。【男性、30～39歳、北部】

番号	意見要旨
167	<p>秋田市は冬期において、近年は温暖化で雪が解けて夜間に氷になるなど、除雪が簡単ではない。若年時は体力があり、車の運転など不自由なく、どこにでも住むことができるが、誰もが高齢になれば除雪や車の運転・身の回りの生活などができなくなっていく。今後 30 年以上の高齢社会を迎えるにあたり、できるだけ車に頼らないコンパクトシティは重要なことである。例えば、施設を郊外に作ると介護勤務する人や関連事業者・家族などもわざわざ郊外に車で出かけなければならない。物や意欲が減ってくるので、居住スペースも狭くて充分、安全に穏やかに暮らすことで十分である。誰にも負担が少ない街づくり。特に、人を優先にした街づくりが大切で、車優先は絶対に認められない。公共交通（バス）は、路線をすべて廃止するのではなく、1～2 時間に 1 本でも運行するなどしてはどうか。バスが廃止されると、自家用車を使用せざるを得ないのは当然のことである。また、料金も 10 円単位でなく 100 円単位にするなど、乗客の利便性を考えるべきです。公共交通の復活を中心に考えることも重要だと思います。【女性、60～69 歳、中央】</p>